

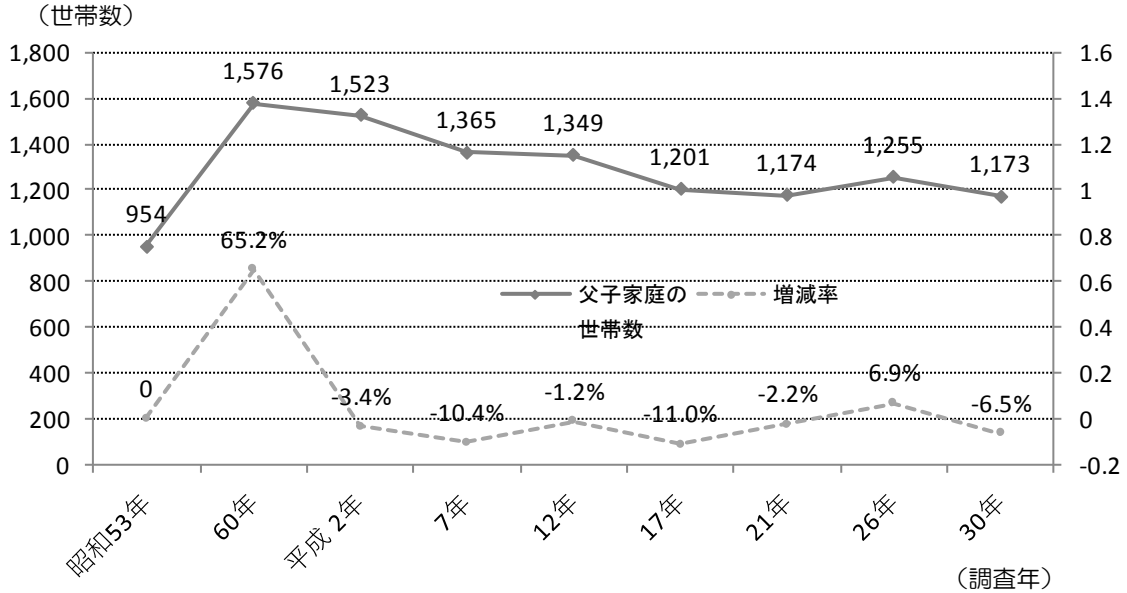
第2章 父子家庭の生活実態

1 父子家庭の世帯の推移と父の状況

1-1 父子家庭の世帯数の年次別推移

本県の父子家庭の世帯数は、平成30年4月1日現在で1,173世帯であり、前回調査（平成26年4月）に比べ、82世帯、6.5%の減少となっており、平成26年に増加したが再び減少に転じた。

【図 1-1 父子家庭の世帯数の年次別推移】



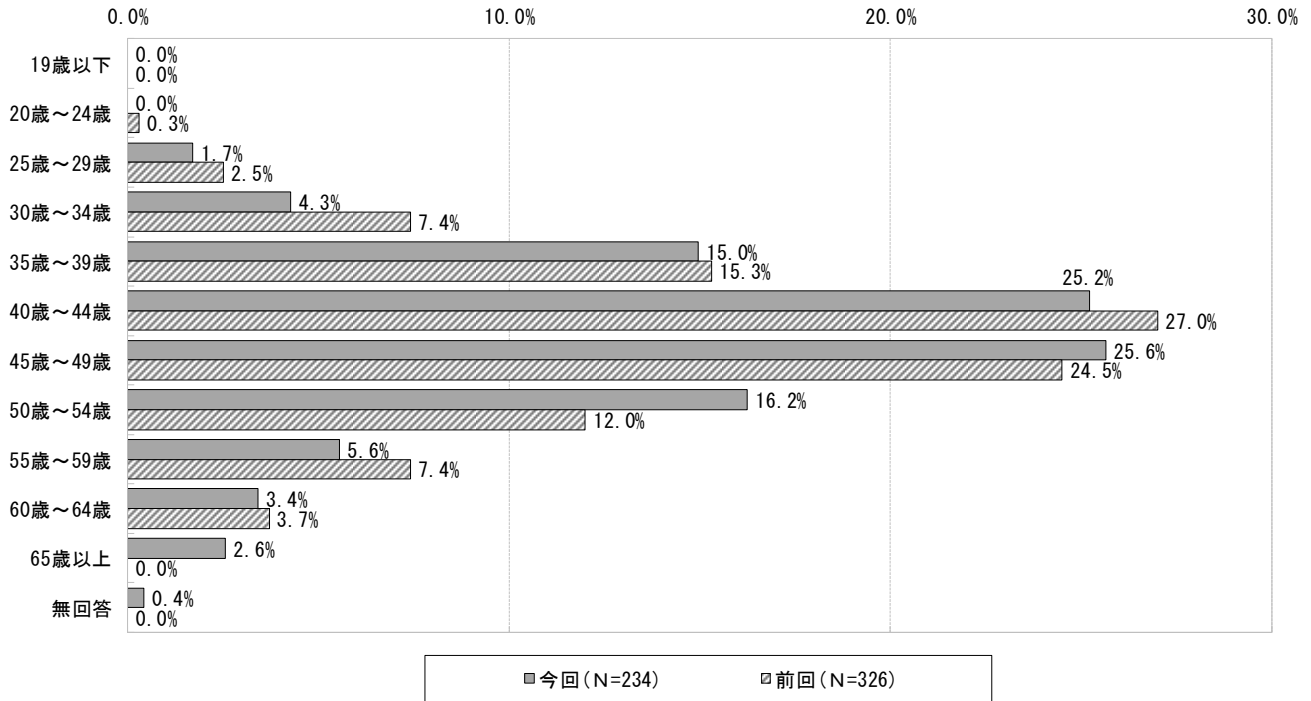
【表 1-1 父子家庭の世帯数の年次別推移】

調査年月	項目	父子家庭の世帯数	前回調査との比較		県全世帯数 (B)	出現率 (A/B)
			増減数	増減率		
昭和53年	7月	954	—	—	262,579	0.36%
60年	9月	1,576	622	65.2%	323,019	0.49%
平成2年	9月	1,523	-53	-3.4%	358,358	0.42%
7年	9月	1,365	-158	-10.4%	400,260	0.34%
12年	9月	1,349	-16	-1.2%	445,332	0.30%
17年	3月	1,201	-148	-11.0%	484,685	0.25%
21年	4月	1,174	-27	-2.2%	521,926	0.22%
26年	4月	1,255	81	6.9%	548,352	0.23%
30年	4月	1,173	-82	-6.5%	564,472	0.21%

1-2 父子家庭の父の年齢

父子家庭の父の年齢は、「45歳～49歳」が25.6%で最も多く、次いで「40歳～44歳」が25.2%、「50歳～54歳」が16.2%となっている。前回調査と比較すると、「50歳～54歳」が4.2ポイント増加し、「30歳～34歳」が3.1ポイント減少している。

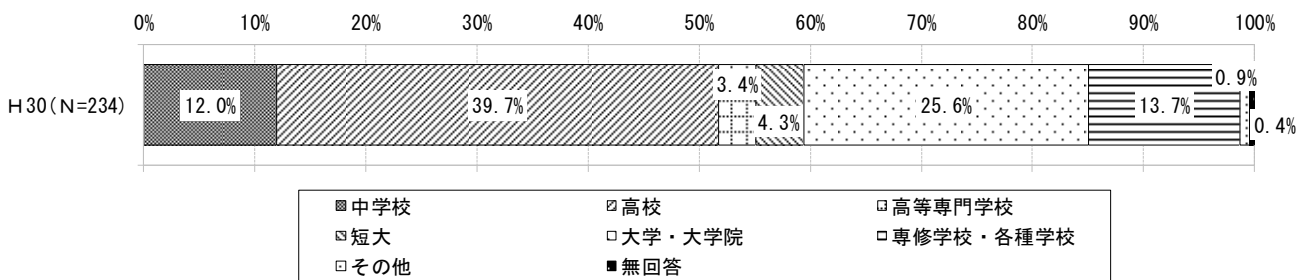
【図 1-2 父子家庭の父の年齢】



1-3 父子家庭の父の最終学歴

父子家庭の父の最終学歴は、「高校」が39.7%で最も多く、次いで「大学・大学院」が25.6%、「専修学校・各種学校」が13.7%、「中学校」が12.0%となっている。

【図 1-3 父の最終学歴】



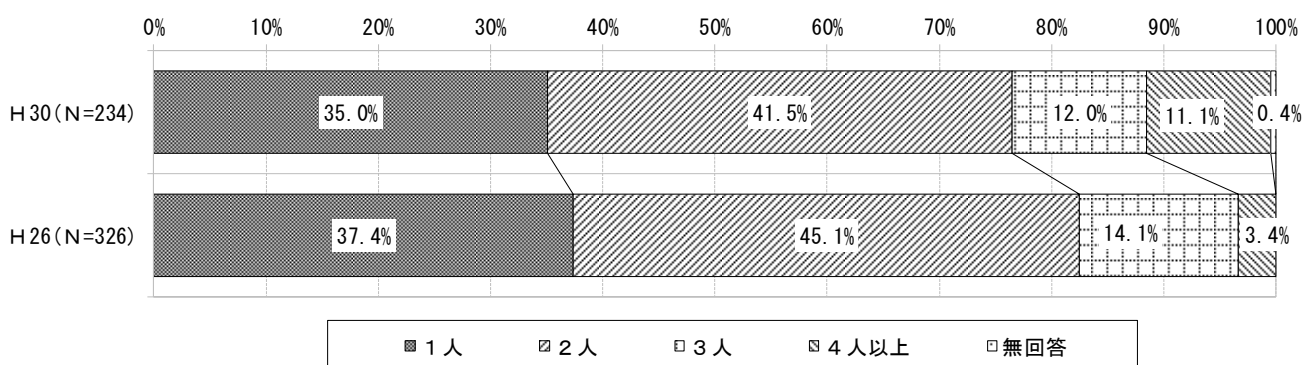
2 父子家庭の子どもの状況と家族構成

2-1 父子家庭の子どもの数

子どもの数は、「2人」が41.5%で最も多く、次いで「1人」が35.0%、「3人」が12.0%となっている。前回調査と比較すると、「4人以上」が7.7ポイント増加している。

世帯の子どもの数の平均は2.0人となり、前回調査の平均の1.8人より、0.2ポイント増加している。

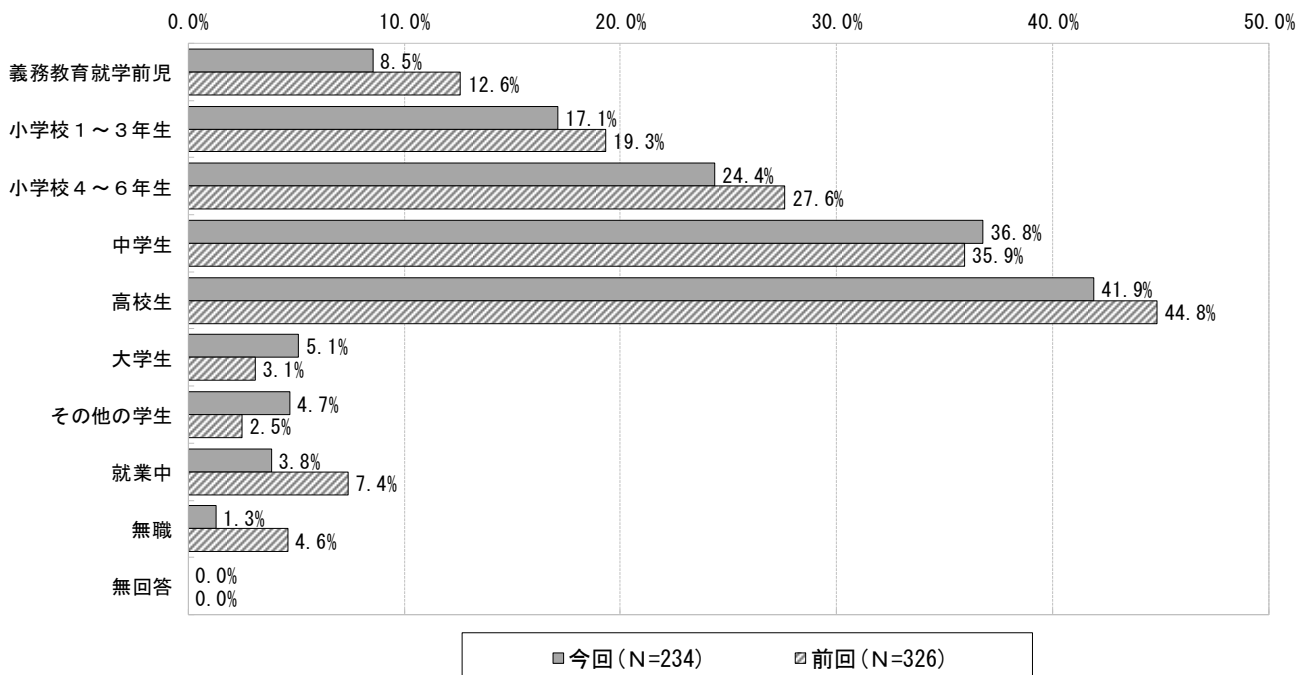
【図2-1 子どもの数】



2-2 父子家庭の世帯ごとの子どもの年代

子どもの年代は、「高校生」のいる世帯が41.9%で最も多く、次いで「中学生」が36.8%、「小学校4～6年生」が24.4%となっている。前回調査と比較すると、「義務教育就学前児」が4.1ポイント減少している。

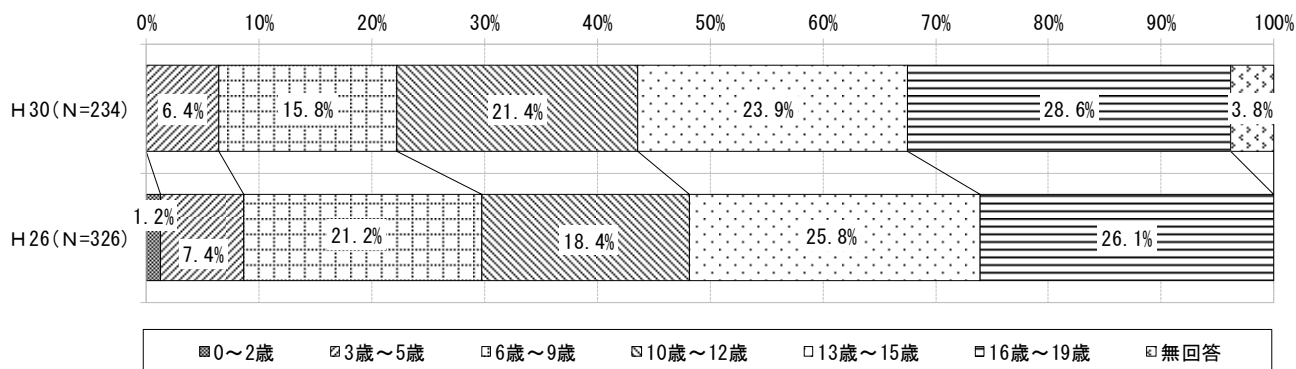
【図2-2 子どもの年代（複数回答）】



2-3 最年少の子どもの年齢

父子家庭の最年少の子どもの年齢は、「16歳～19歳」が28.6%で最も多く、次いで「13歳～15歳」が23.9%、「10歳～12歳」が21.4%となっている。前回調査と比較すると、「10歳～12歳」が3.0ポイント増加し、「6歳～9歳」が5.4ポイント減少している。

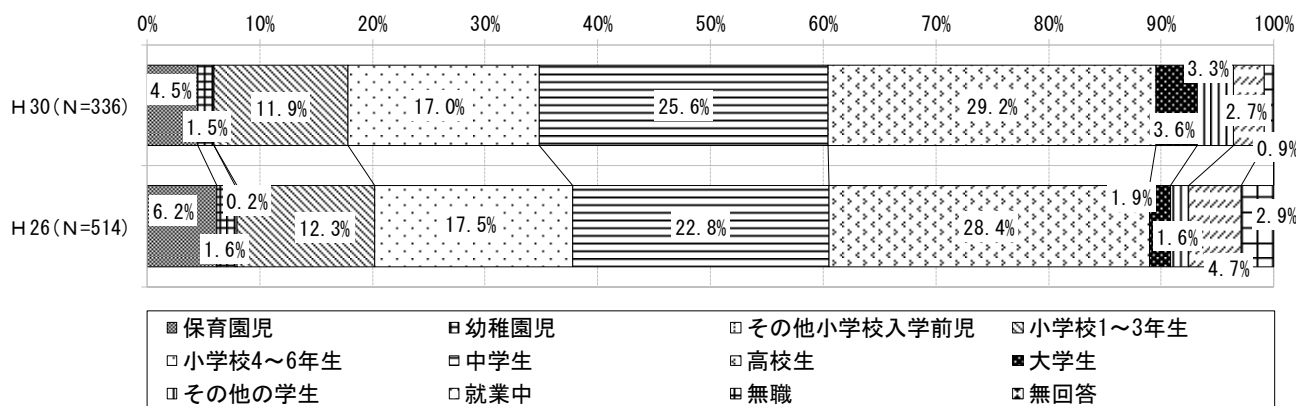
【図 2-3 最年少の子どもの年齢】



2-4 子どもの就学・就業状況

子ども全体でみると、就学・就業状況は、「高校生」が29.2%で最も多く、次いで「中学生」が25.6%、「小学校4～6年生」が17.0%となっている。前回調査と比較すると、「中学生」が2.8ポイント増加している。

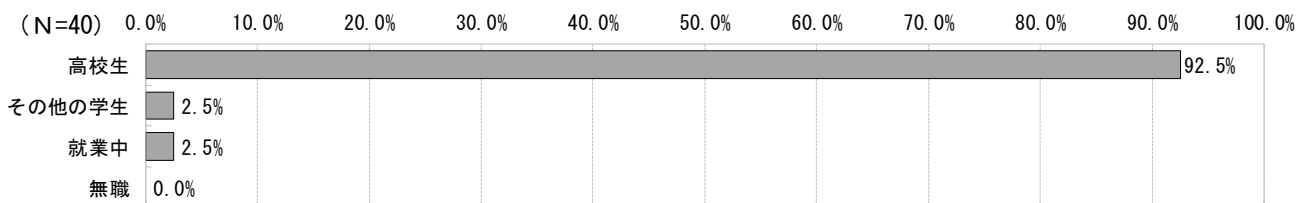
【図 2-4 子どもの状況】



2-4-1 16歳の子の就学・就業状況

2-4の子どもの就学・就業状況のうち、16歳の子の就学・就業状況は、「高校生」が92.5%で「その他の学生」、「就業者」はそれぞれ2.5%となっている。

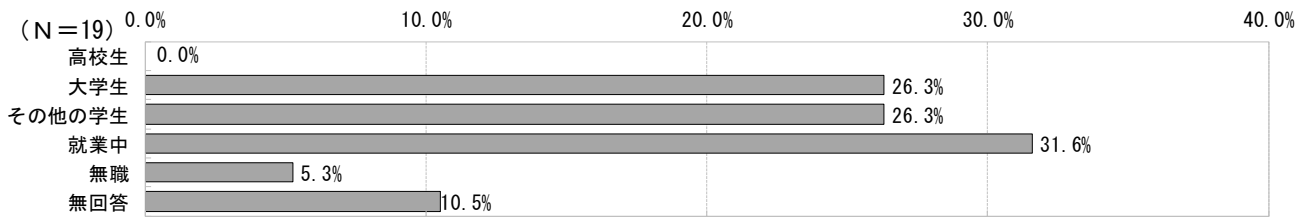
【図 2-4-1 16歳の子の就学・就業状況】



2-4-2 19歳の子の就学・就業状況

2-4の子どもの就学・就業状況のうち、19歳の子の就学・就業状況は、「就業者」が31.6%で最も多く、次いで「大学生」、「その他の学生」がそれぞれ26.3%、「無職」が5.3%となっている。「高校生」、「大学生」、「その他の学生」を合わせた学生は52.6%となっている。

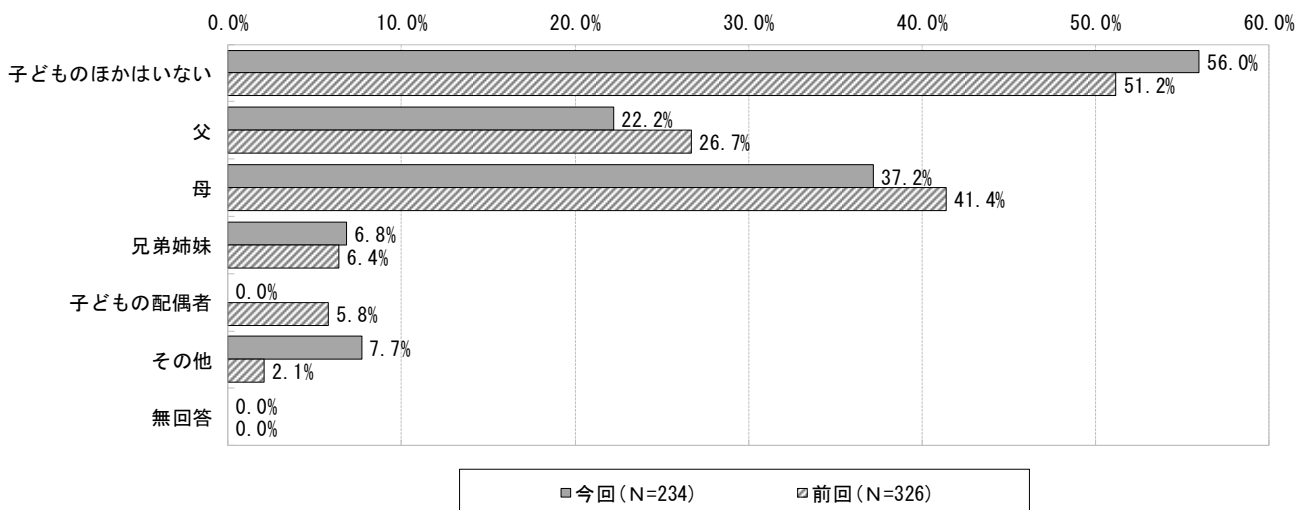
【図2-4-2 19歳の子の就学・就業状況】



2-5 家族構成

家族構成は、「子どものほかはいない」が56.0%で最も多く、次いで「(父子家庭の父から見た)母」が37.2%、「(父子家庭の父から見た)父」が22.2%となっている。前回調査と比較すると、「子どものほかはいない」が4.8ポイント増加しており、父・母と同居している世帯が減少している。

【図2-5 家族構成 (複数回答)】

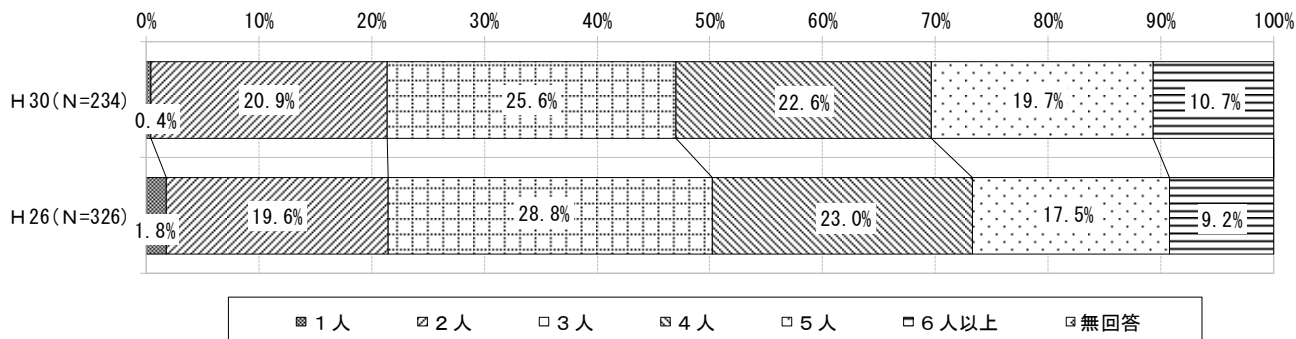


2-6 家族の人数

家族の人数は、「3人」が25.6%で最も多く、次いで「4人」が22.6%、「2人」が20.9%となっている。前回調査と比較すると、「3人」が3.2ポイント減少し、「5人」が2.2ポイント増加している。

家族の人数の平均は3.8人となり、前回調査の平均の3.7人より0.1ポイント増加している。

【図2-6 家族の人数】

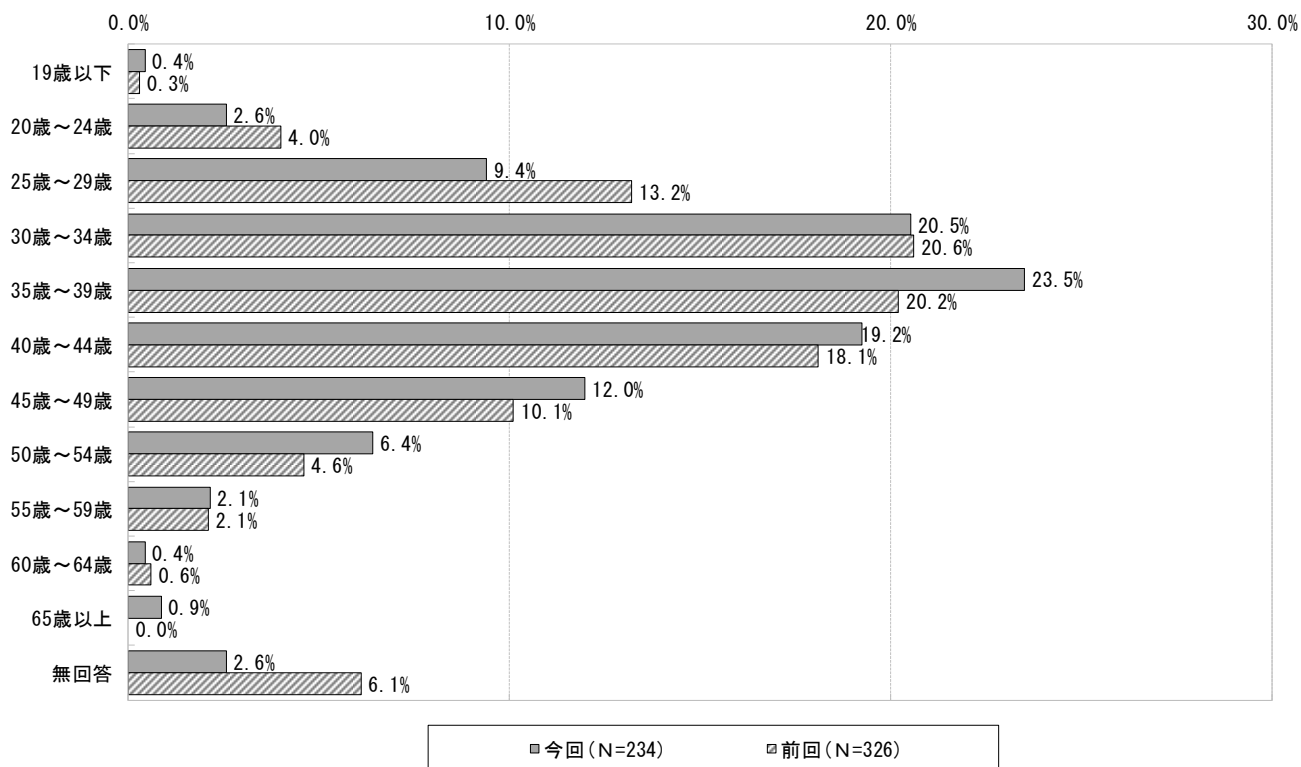


3 父子家庭になった経緯

3-1 父子家庭になった当時の父の年齢

父子家庭になった当時の父の年齢は、「35歳～39歳」が23.5%で最も多く、次いで「30歳～34歳」が20.5%、「40歳～44歳」が19.2%となっている。前回調査と比較すると、「35歳～39歳」が3.3ポイント増加し、「25歳～29歳」が3.8ポイント減少している。

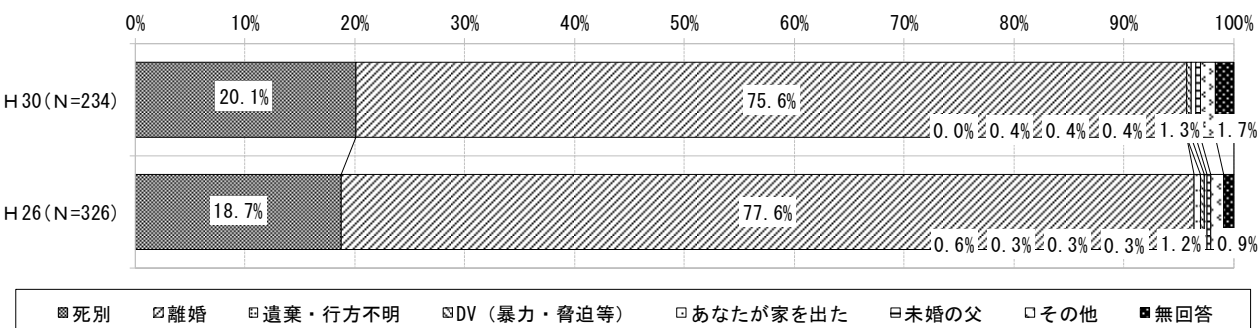
【図3-1 父子家庭になった当時の父の年齢】



3-2 父子家庭となった原因

父子家庭となった原因は、「離婚」が75.6%で最も多く、次いで「死別」が20.1%となっている。前回調査と比較すると、「離婚」が2.0ポイント減少し、「死別」が1.4ポイント増加している。なお「離婚」のうち、61.6%が協議離婚、14.5%が調停・裁判等による離婚となっている。

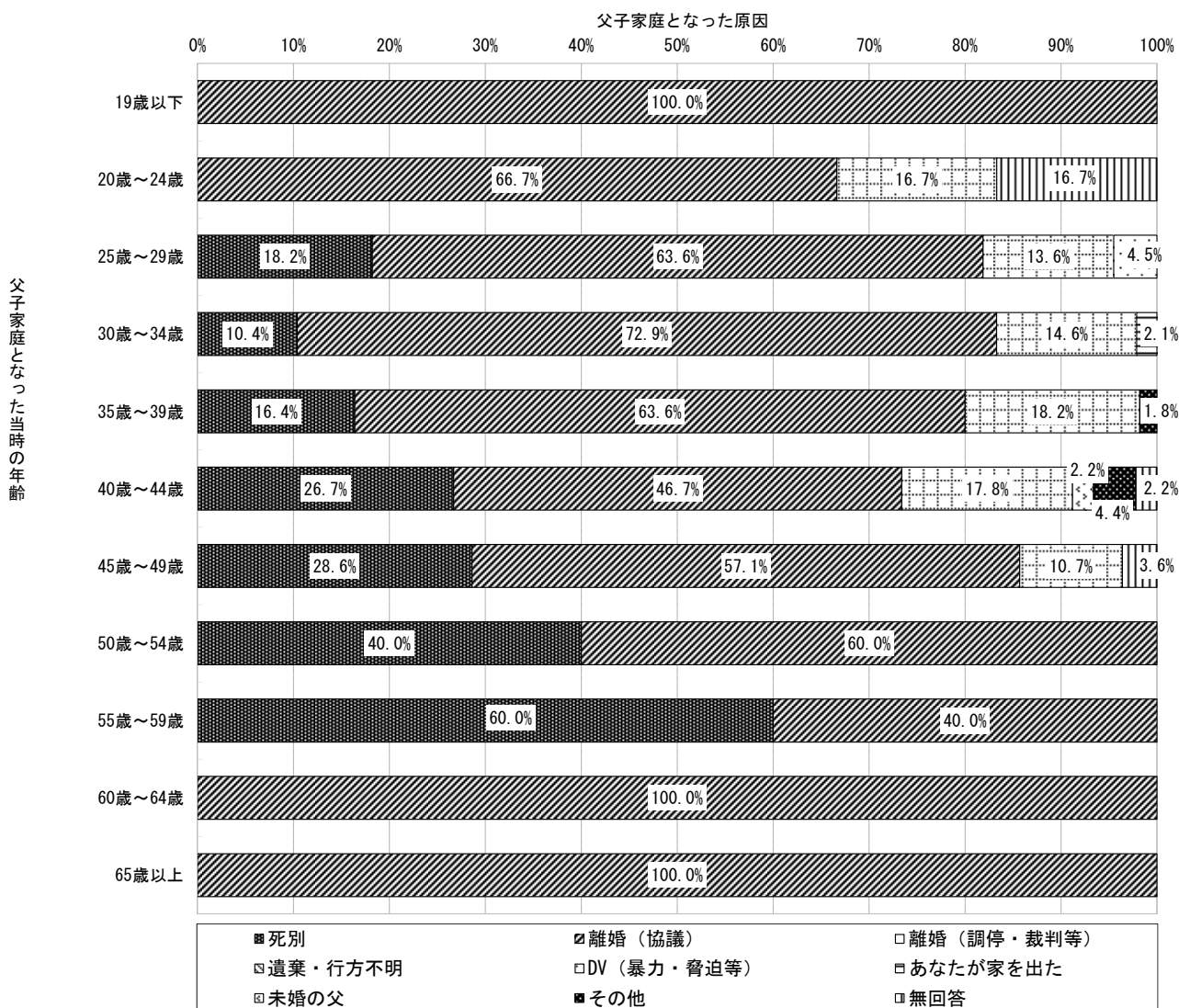
【図3-2 父子家庭となった原因】



3-2-1 父子家庭となった当時の年齢とその原因

父子家庭になった当時の年齢別とその原因を併せてみると、「55歳～59歳」では「死別」の割合が最も高いが、それ以外の年齢では「離婚（協議）」の割合が最も高くなっている。

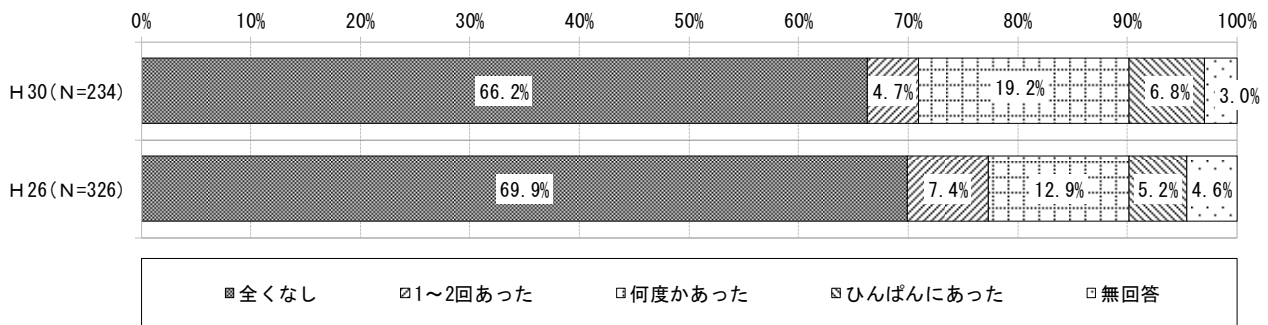
【図3-2-1 父子家庭となった当時の年齢とその原因】



3-3 妻等からの暴力の有無

妻等からの暴力の有無は、「全くなし」が66.2%で最も多く、次いで「何度かあった」が19.2%となっている。

【図 3-3 妻等からの暴力の有無】

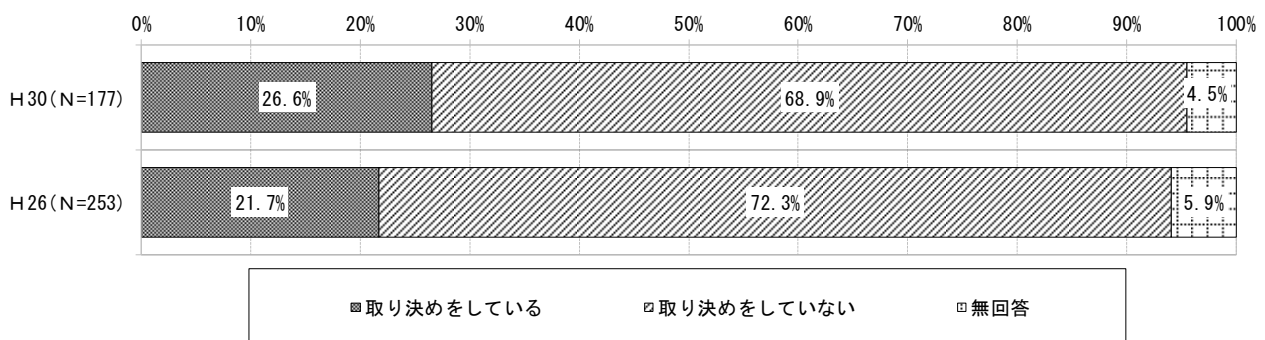


4 養育費および面会交流の状況

4-1 養育費の取り決めの有無

養育費の取り決めの有無は、「取り決めている」が26.6%で、「取り決めている」26.6%となっている。前回調査と比較すると、「取り決めている」割合は、4.9ポイント増加している。

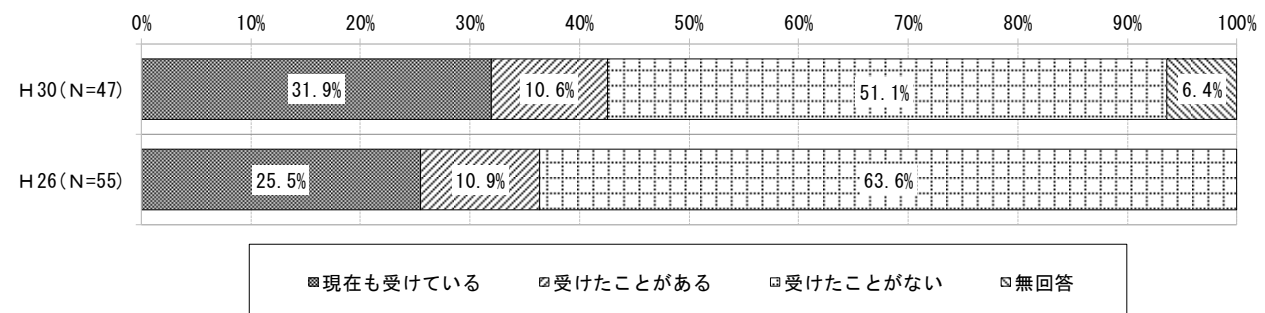
【図 4-1 養育費の取り決めの有無】



4-2 養育費の受給状況（取り決めている場合）

4-1の養育費の取り決めている人のうち、養育費の受給状況は、「受けたことがない」が51.1%で最も多く、次いで「現在も受けている」が31.9%、「受けたことがある」が10.6%となっている。前回調査と比較すると、「受けたことがない」は12.5ポイント減少している。

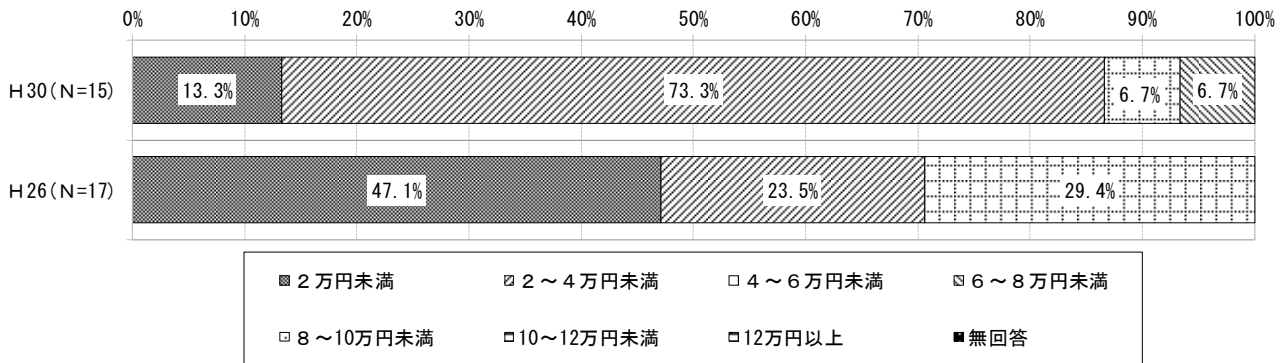
【図 4-2 養育費の受給状況（取り決めている場合）】



4-2-1 養育費の月額

4-2の養育費の取り決めをして、現在も養育費を受けている人のうち、養育費の月額は、「2～4万円」が73.3%で最も多く、次いで「2万円未満」が13.3%、「4～6万円未満」、「6～8万円未満」が共に6.7%となっている。現在も受け取っている場合の平均額は約2万7千円である。（前回は2万2千円）

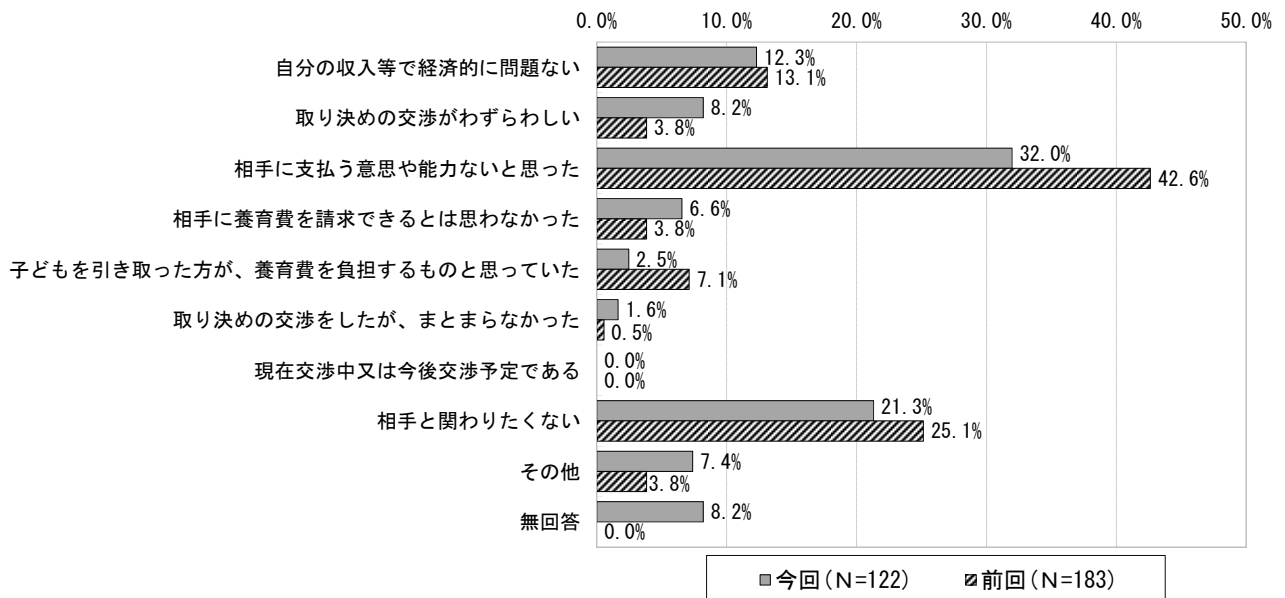
【図4-2-1 養育費の月額】



4-3 養育費の取り決めをしなかった理由

4-1の養育費の取り決めをしていない人のうち、取り決めをしなかった理由は「相手に支払う意思や能力がないと思った」が32.0%で最も多く、次いで「相手と関わりたくない」が21.3%、「自分の収入等で経済的に問題ない」が12.3%となっている。前回調査と比較すると、「相手に支払う意思や能力がないと思った」が10.6ポイント、「相手と関わりたくない」が3.8ポイント減少し、「取り決めの交渉がわずらわしい」が4.4ポイント、「相手に養育費を請求できるとは思わなかった」が2.8ポイント増加している。

【図4-3 養育費の取り決めをしなかった理由】

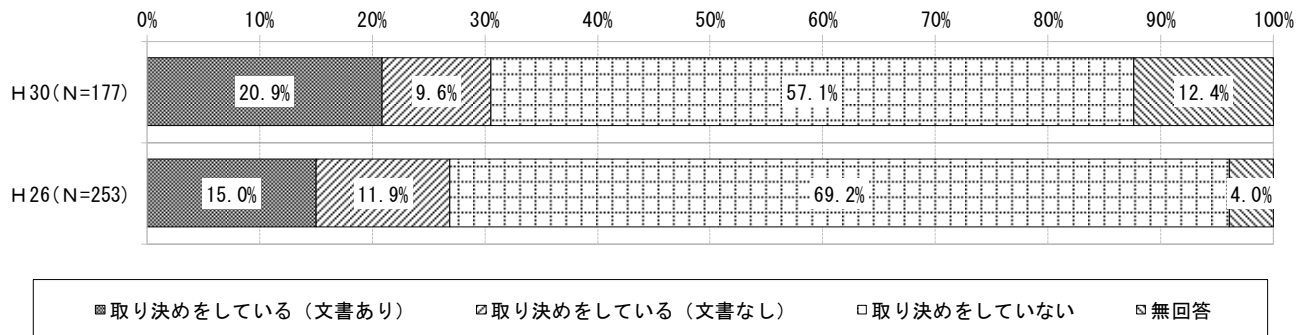


4-4 面会交流の取り決めの有無

面会交流の取り決めの状況は、「取り決めている」が57.1%で最も多く、「取り決めている」が30.5%となっている。

(面会交流：離婚後または別居中に、子どもの養育・監護していない方の親が子どもと面会等を行うこと)

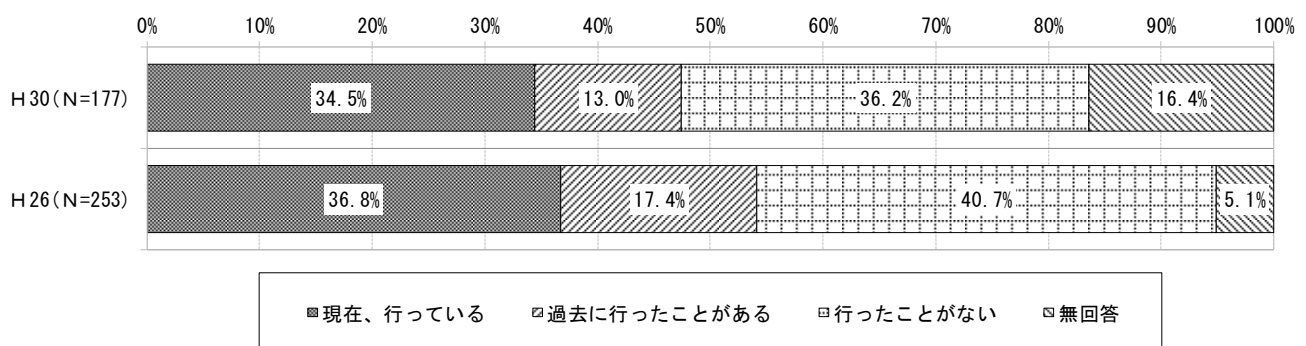
【図4-4 面会交流の取り決めの有無】



4-5 面会交流の実施状況

面会交流の実施状況は、「行ったことがない」が36.2%で最も多く、次いで「現在、行っている」が34.5%、「過去に行ったことがある」が13.0%となっている。

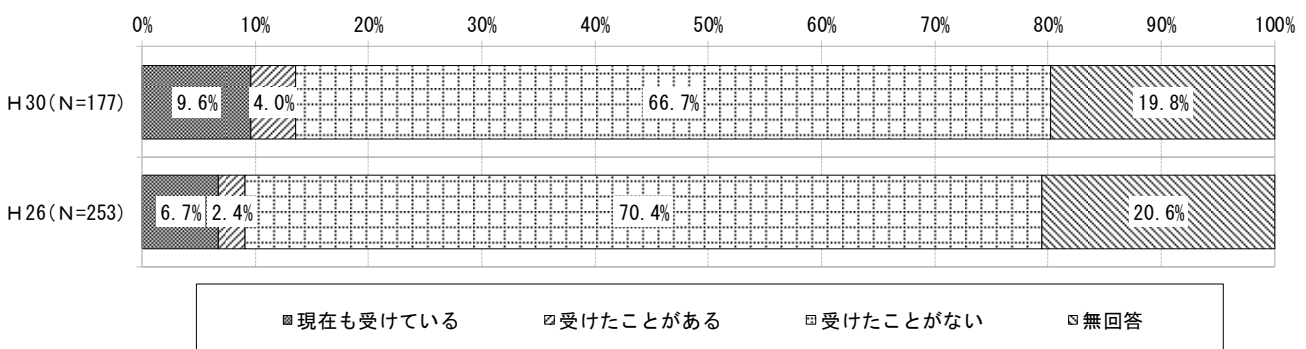
【図4-5 面会交流の実施状況】



4-6 養育費の受給状況 (全体)

全体の養育費の受給状況をみると、「受けたことがない」が66.7%で最も多く、次いで「現在も受けている」が9.6%、「受けたことがある」が4.0%となっている。

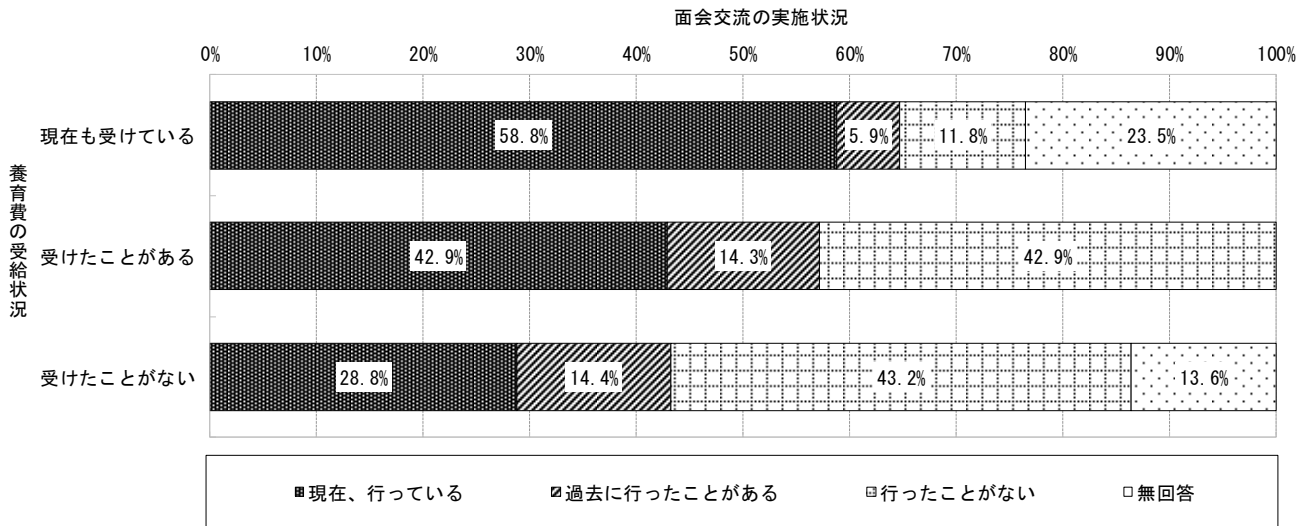
【図4-6 養育費の受給状況 (全体)】



4-6-1 養育費の受給状況と面会交流の実施状況

養育費の受給状況と面会交流の実施状況を併せてみると、養育費を「現在も受けている」場合は、面会交流を「現在も行っている」が58.8%で最も多く、養育費を「受けたことがない」場合は面会交流を「行ったことがない」が43.2%と最も多くなっている。

【図4-6-1 養育費の受給状況と面会交流の実施状況】

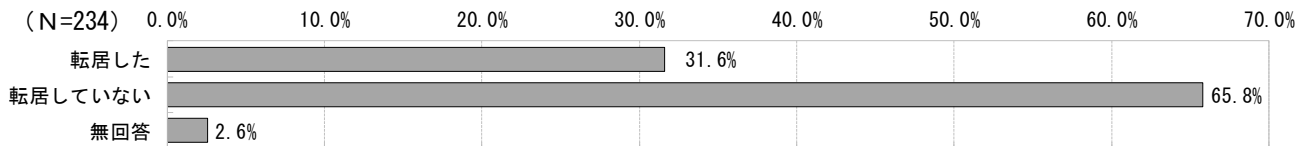


5 住居の状況

5-1 父子家庭になった後の転居の有無

父子家庭になった後の転居の有無は、「転居していない」が65.8%であり、「転居した」の31.6%よりも多くなっている。

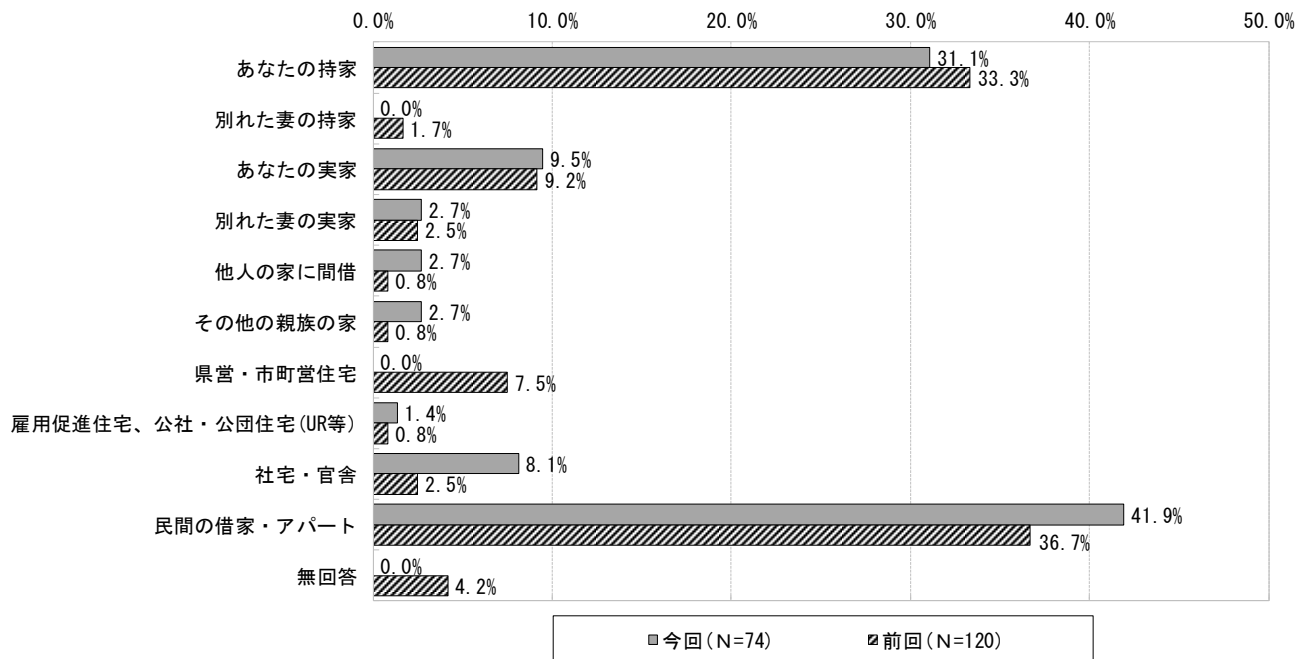
【図 5-1 父子家庭になった後の転居の有無】



5-2 父子家庭になる前の住居

転居した人の父子家庭になる前の住居は、「民間の借家・アパート」が41.9%で最も多く、次いで「あなたの持家」が31.1%、「あなたの実家」が9.5%となっている。

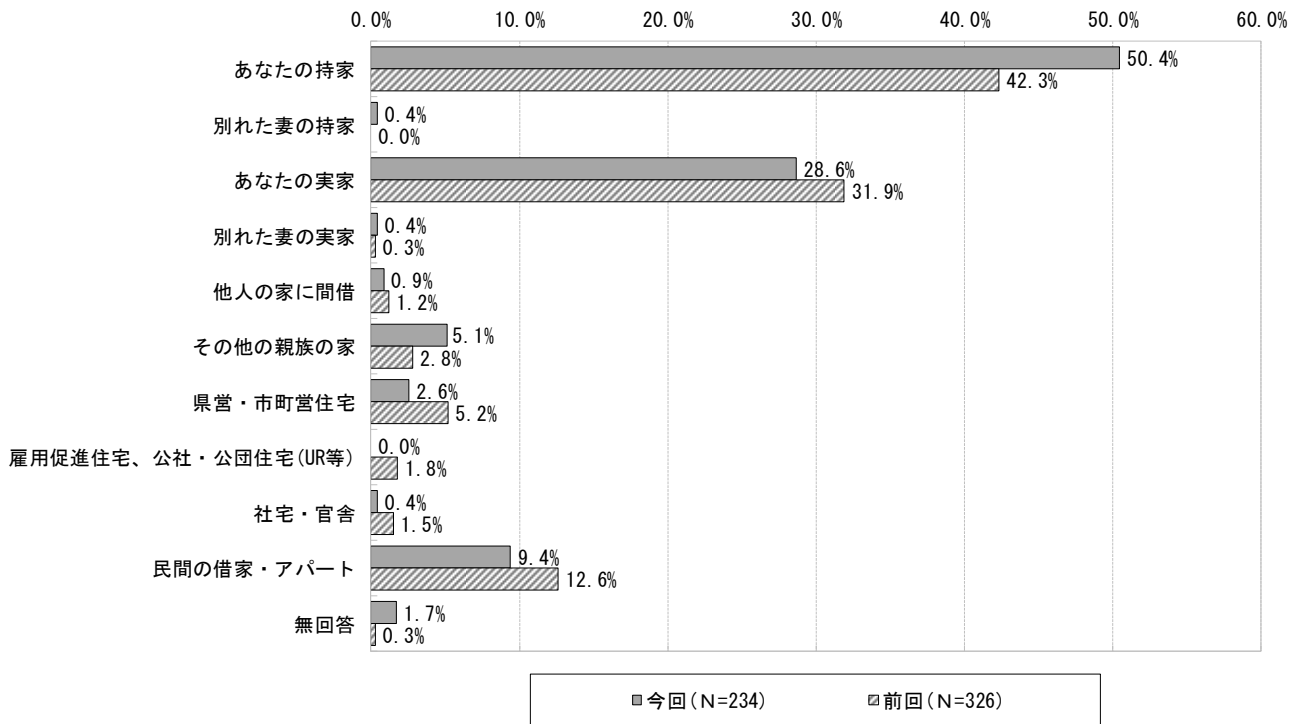
【図 5-2 父子家庭になる前の住居】



5-3 現在の住居

現在の住居は、「あなたの持家」が、50.4%で最も多く、次いで「あなたの実家」が28.6%、「民間の借家・アパート」が9.4%となっている。前回調査と比較すると、「あなたの持家」が8.1ポイント増加し、「あなたの実家」が3.3ポイント、「民間の借家・アパート」が3.2ポイント減少している。

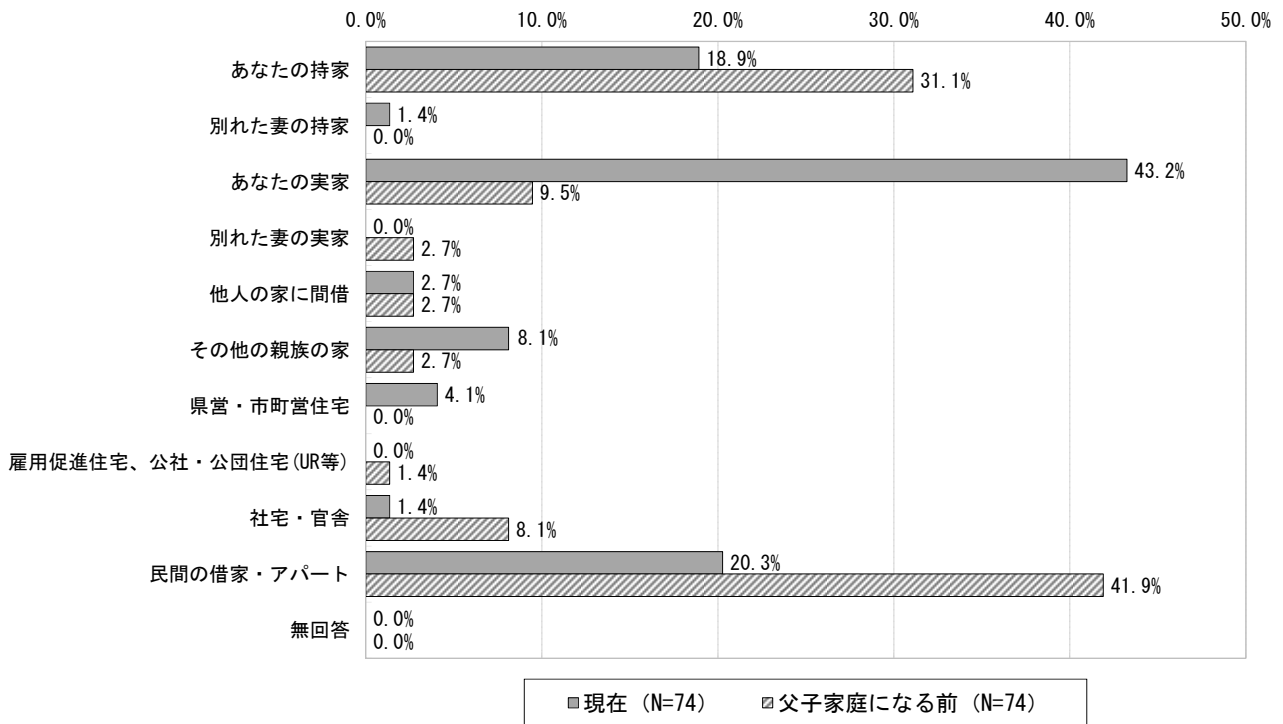
【図 5-3 現在の住居】



5-3-1 父子家庭になる前の住居と現在の住居

父子家庭になった後に転居した人のうち、父子家庭になる前の住居と現在の住居を比較すると、父子家庭になる前後で「あなたの実家」が33.7ポイント増加し、「民間の借家・アパート」が21.6ポイント、「あなたの持家」が12.2ポイント減少している。

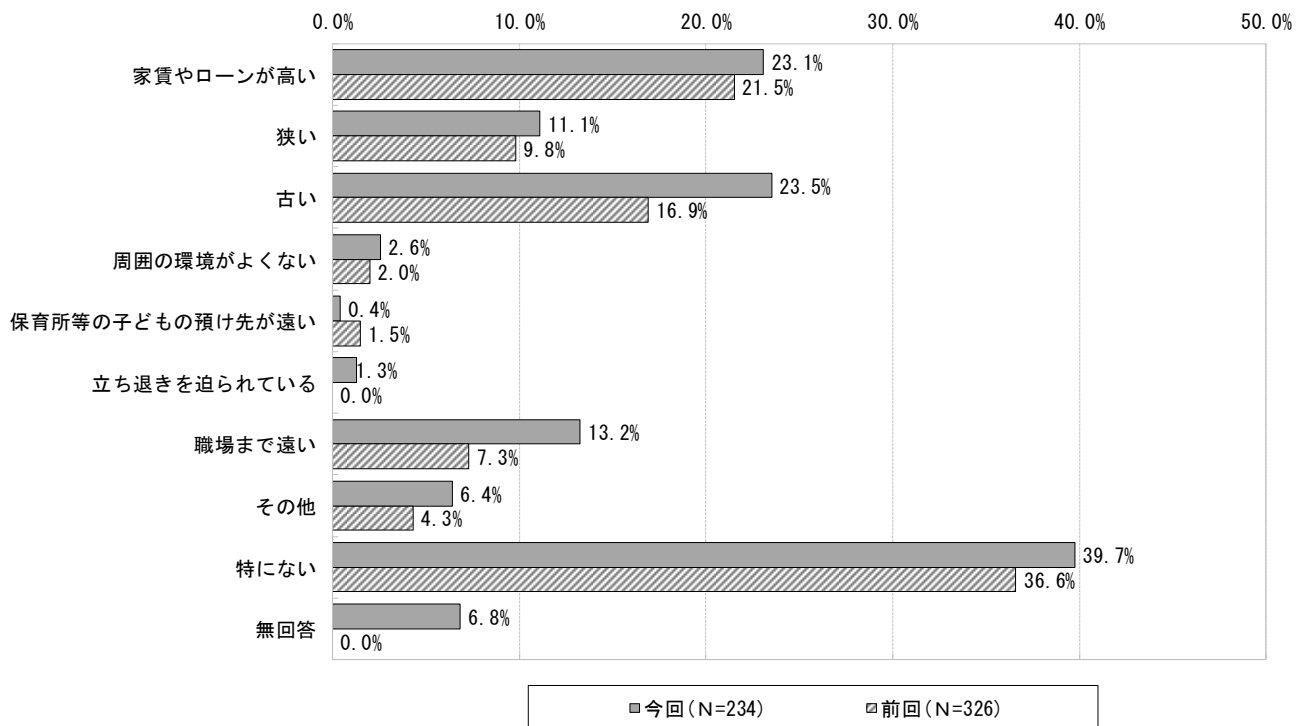
【図 5-3-1 父子家庭になる前の住居と現在の住居】



5-4 現在の住居で困っていること

現在の住居で困っていることは、「特にない」が39.7%で最も多く、次いで「古い」が23.5%、「家賃やローンが高い」が23.1%となっている。前回調査と比較すると、「古い」が6.6ポイント増加している。

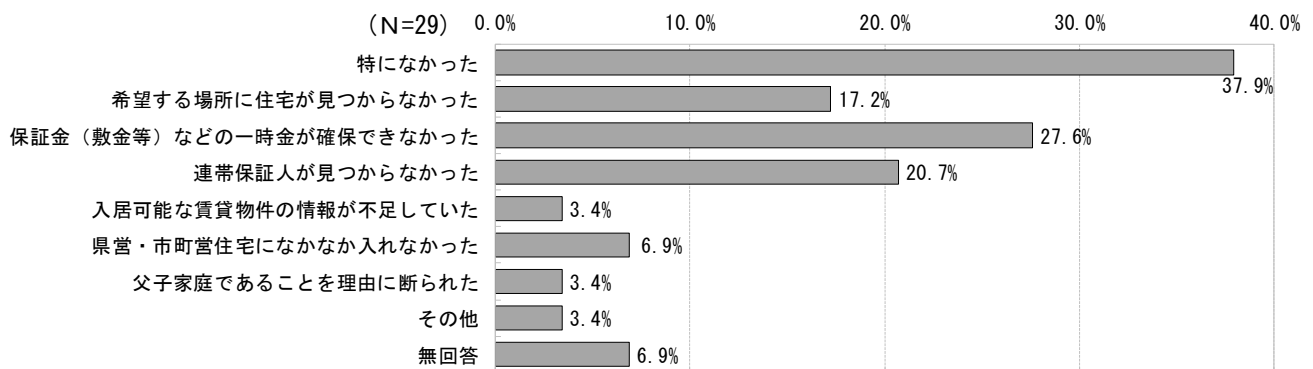
【図 5-4 現在の住居で困っていること（複数回答）】



5-5 賃貸住宅を探すときに困ったこと

現在の住居が賃貸住宅である場合、賃貸住宅を探すときに困ったことは、「特になかった」が37.9%で最も多く、次いで「保証金（敷金）などの一時金が確保できなかった」が27.6%、「連帯保証人が見つからなかった」が20.7%となっている。

【図 5-5 賃貸住宅を探すときに困ったこと（複数回答）】

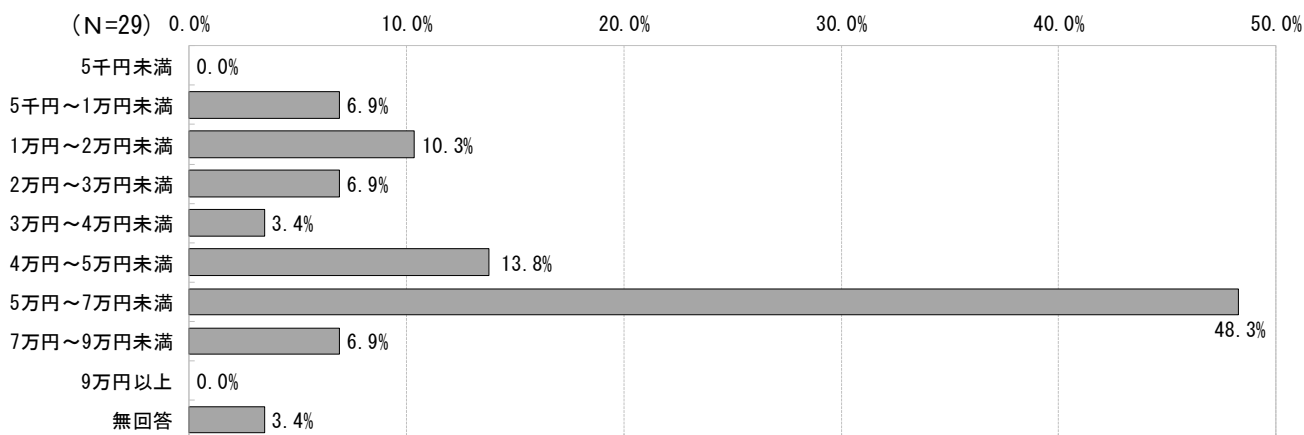


※賃貸住宅には県営・市町営住宅、雇用促進住宅、公社・公団住宅、社宅・官舎、民間の借家・アパートが含まれる。

5-6 賃貸住宅の1ヶ月の家賃

現在の住居が賃貸住宅である場合、賃貸住宅1ヶ月の家賃は、「5万円～7万円」が48.3%で最も多く、次いで「4万円～5万円」が13.8%、「1万円～2万円」が10.3%となっている。

【図5-6 賃貸住宅の1ヶ月の家賃】

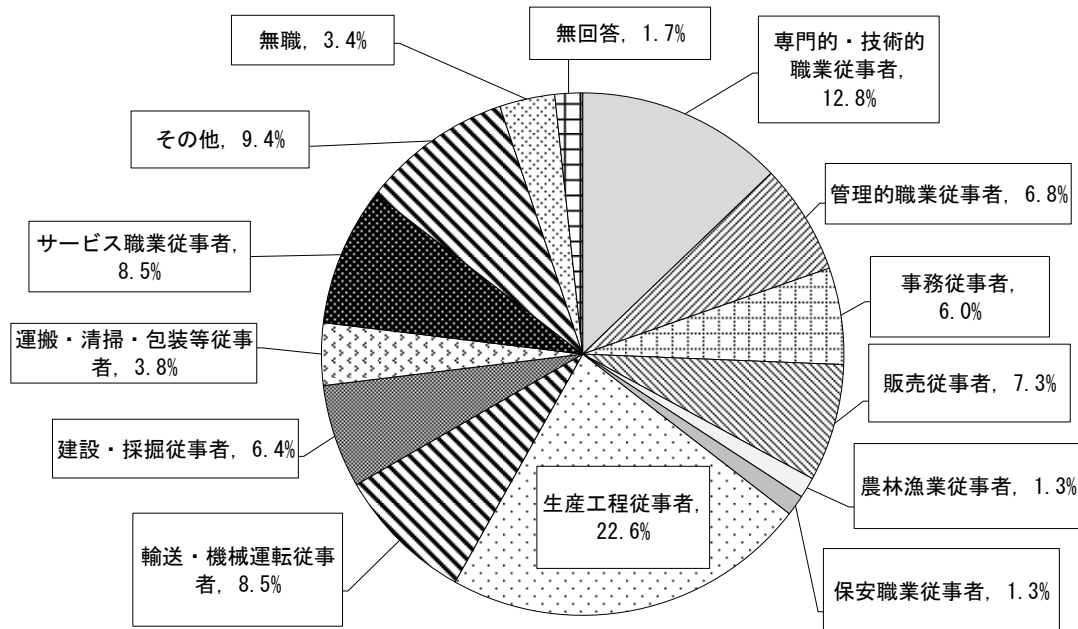


6 父子家庭の父の就労状況

6-1 現在の父の就労状況および職業

現在の父子家庭の父の就労状況は、有職が94.9%、無職が3.4%となっている。現在の父子家庭の父の職業は、「生産工程従事者」が22.6%で最も多く、次いで「専門的・技術的職業従事者」が12.8%、「輸送・機械運転従事者」、「サービス職業従事者」がそれぞれ8.5%となっている。

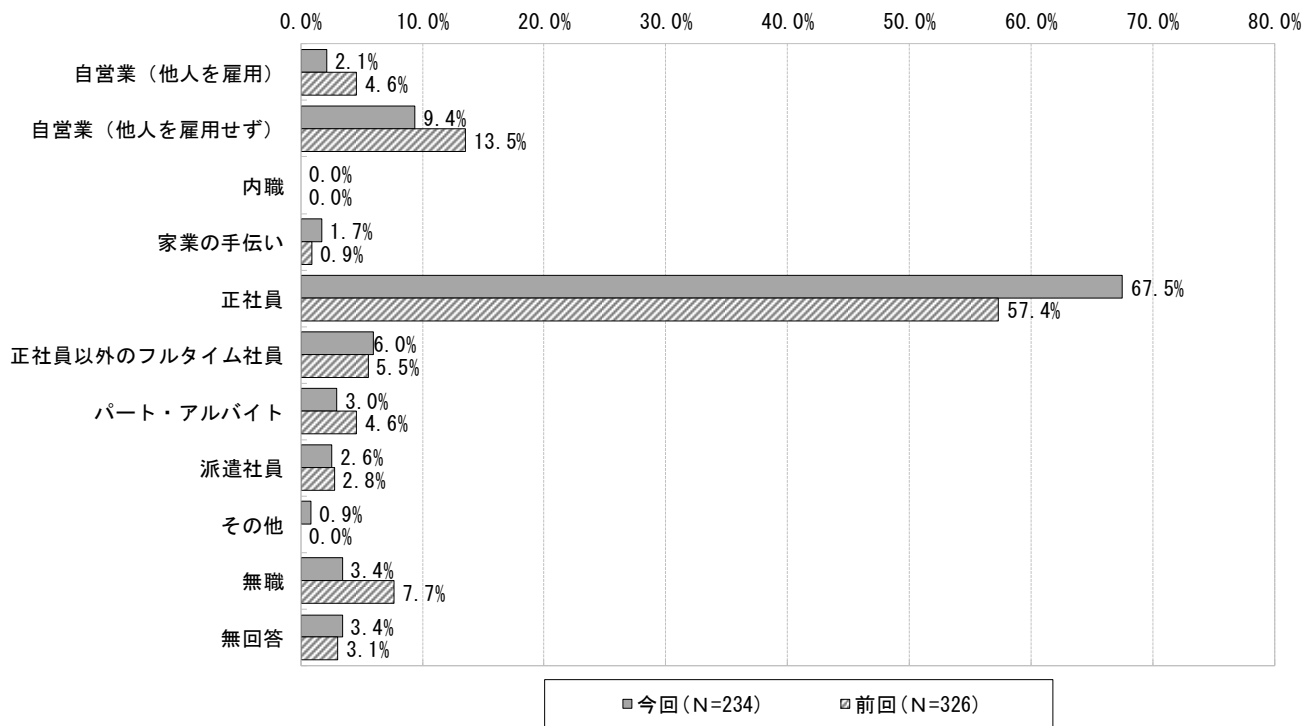
【図6-1 現在の父の職業】



6-2 現在の父の就労形態

現在の父子家庭の父の就労形態は、「正社員」が67.5%で最も多く、次いで「自営業（他人を雇用せず）」が9.4%となっている。前回調査と比較すると、「正社員」が10.1ポイント増加し、「自営業（他人を雇用・雇用せずの計）」が6.6ポイント減少している。

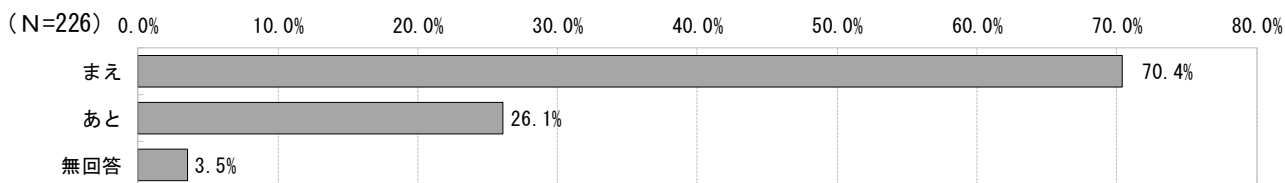
【図 6-2 現在の父の就労形態】



6-3 現在の仕事に就いた時期

現在就労している父子家庭の父が、現在の仕事に就いた時期は、父子家庭になる「まえ」(70.4%)が、「あと」(26.1%)より多くなっている。

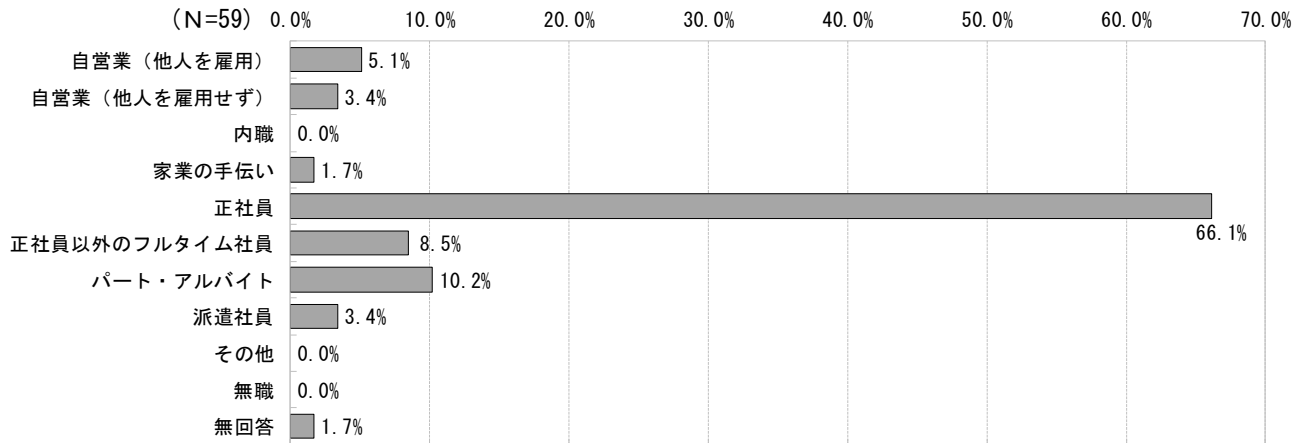
【図 6-3 現在の仕事に就いた時期】



6-4 父子家庭となる以前の就労形態

6-3で現在の仕事に就いた時期が父子家庭になった「あと」と回答した人のうち、父子家庭となる以前の就労形態は、「正社員」が66.1%で最も多く、次いで「パート・アルバイト」が10.2%、「正社員以外のフルタイム社員」が8.5%となっている。

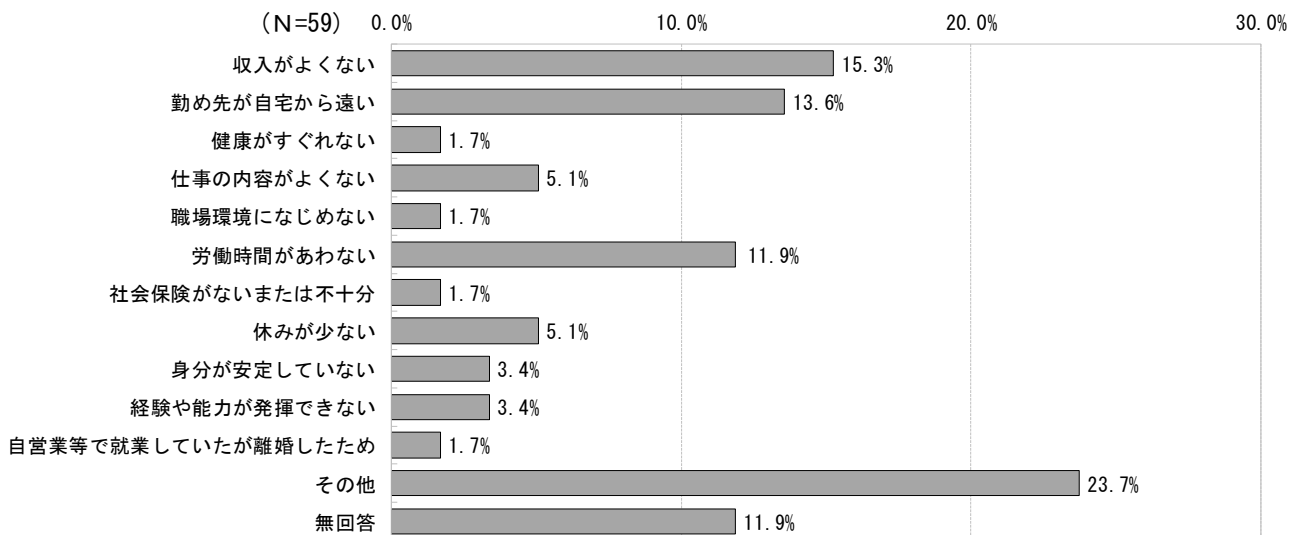
【図 6-4 父子家庭となる以前の就労形態】



6-5 転職した理由

6-3で現在の仕事に就いた時期が父子家庭になった「あと」と回答した人のうち、以前の仕事から転職した理由では、「その他」を除き「収入がよくない」が15.3%で最も多く、次いで「勤め先が自宅から遠い」が13.6%、「労働時間が合わない」が11.9%となっている。

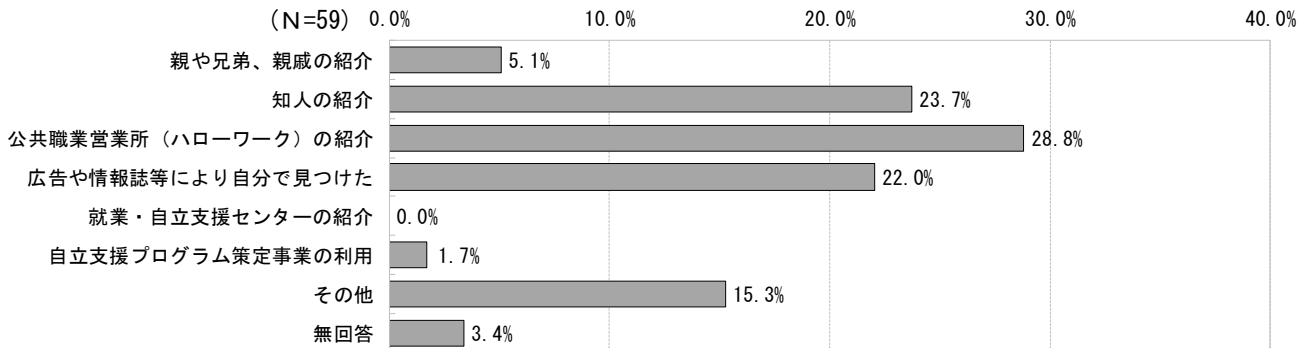
【図 6-5 転職した理由】



6-6 現在の仕事を見つけた方法

6-3で現在の仕事に就いた時期が父子家庭になった「あと」と回答した人で、現在の仕事を見つけた方法については、「公共職業安定所（ハローワーク）の紹介」が28.8%で最も多く、次いで「知人の紹介」が23.7%、「広告や情報誌等により自分で見つけた」22.0%となっている。

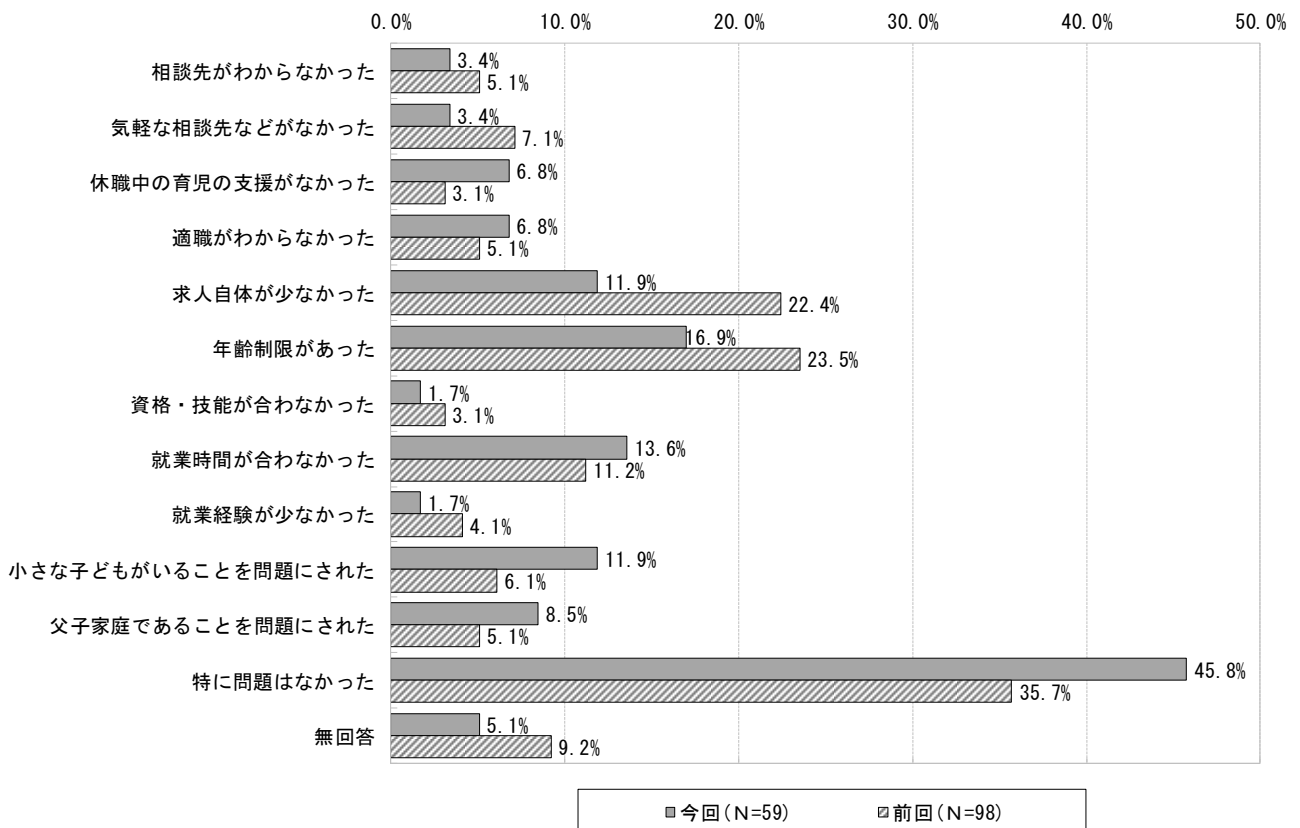
【図6-6 現在の仕事を見つけた方法】



6-7 父子家庭になった後の求職活動の問題点

6-3で現在の仕事に就いた時期が父子家庭になった「あと」と回答した人のうち、求職活動の問題点は、「特に問題はなかった」が45.8%で最も多く、次いで「年齢制限があった」が16.9%となっている。前回調査と比較すると、「特に問題はなかった」が10.1ポイント増加し、「求人自体が少なかった」が10.5ポイント減少している。

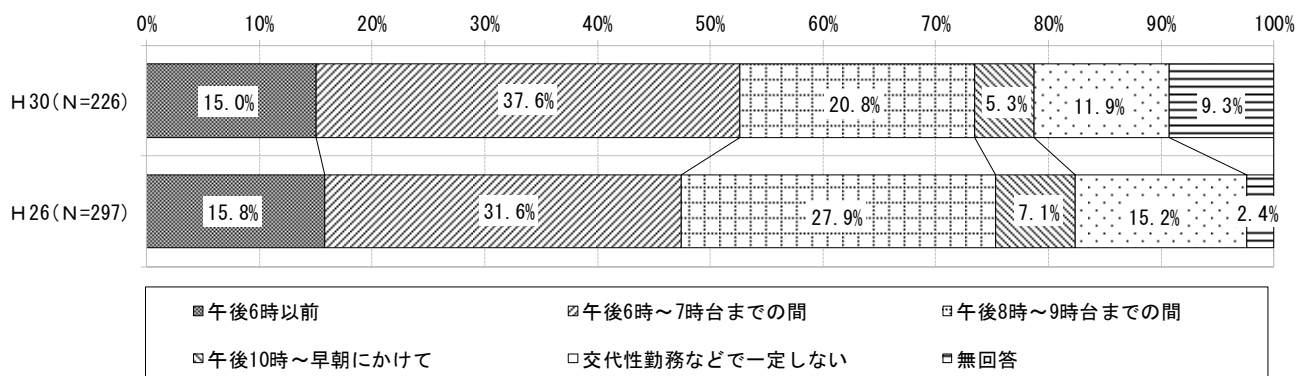
【図6-7 父子家庭になった後の求職活動の問題点（複数回答）】



6-8 帰宅時間

現在就労している父子家庭の父の帰宅時間は、「午後6時～7時台までの間」が37.6%で最も多く、次いで「午後8時～9時台までの間」が20.8%となっている。前回調査と比較すると、「午後6時～7時台までの間」が6.0ポイント増加し、「午後8時～9時台までの間」が7.1ポイント減少している。

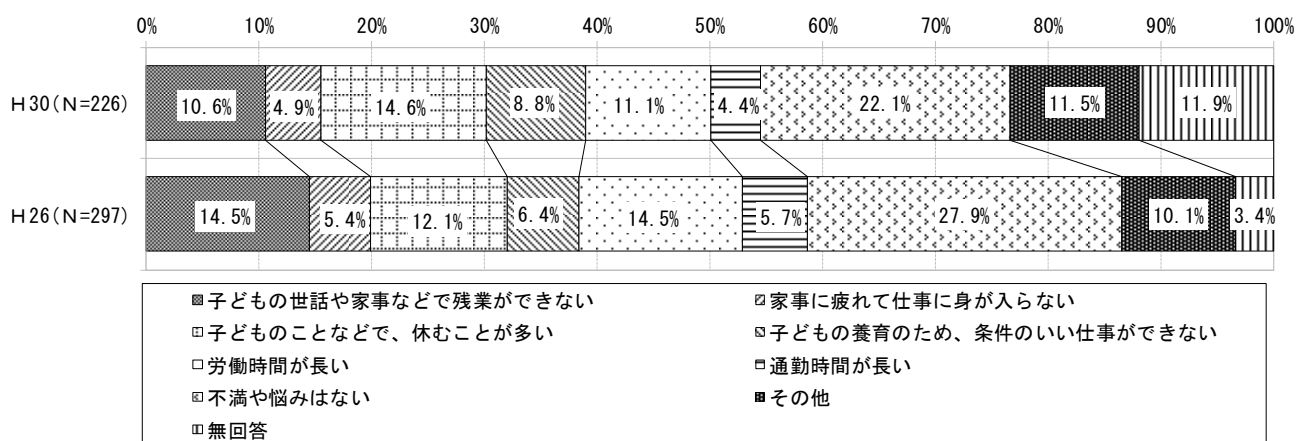
【図 6-8 父の帰宅時間】



6-9 仕事上の不満や悩み

現在就労している場合の仕事上の不満や悩みは、「不満や悩みはない」が22.1%で最も多く、次いで「子どものことなどで休むことが多い」が14.6%、「労働時間が長い」が11.1%となっている。前回調査と比較すると、「子どものことなどで休むことが多い」が2.5ポイント増加、「不満や悩みはない」が5.8ポイント、「子どもの世話や家事などで残業ができない」が3.9ポイント減少している。

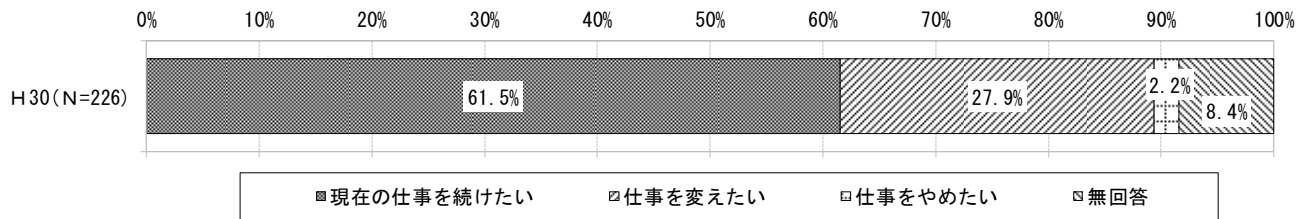
【図 6-9 仕事上の不満や悩み】



6-10 転職の希望の有無

現在、就労している人の転職希望の有無は、「現在の仕事を続けたい」が61.5%で最も多く、次いで「仕事を変えたい」が27.9%、「仕事をやめたい」が2.2%となっている。

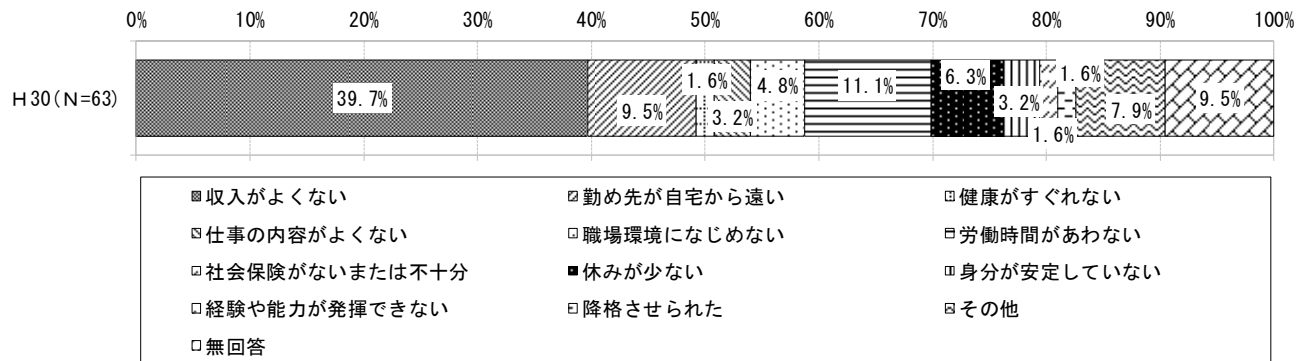
【図 6-10 転職の希望の有無】



6-10-1 仕事を変えたい理由

「仕事を変えたい」と回答した人のうち、その理由は「収入がよくない」39.7%が最も多く、次いで「労働時間があわない」が11.1%となっている。

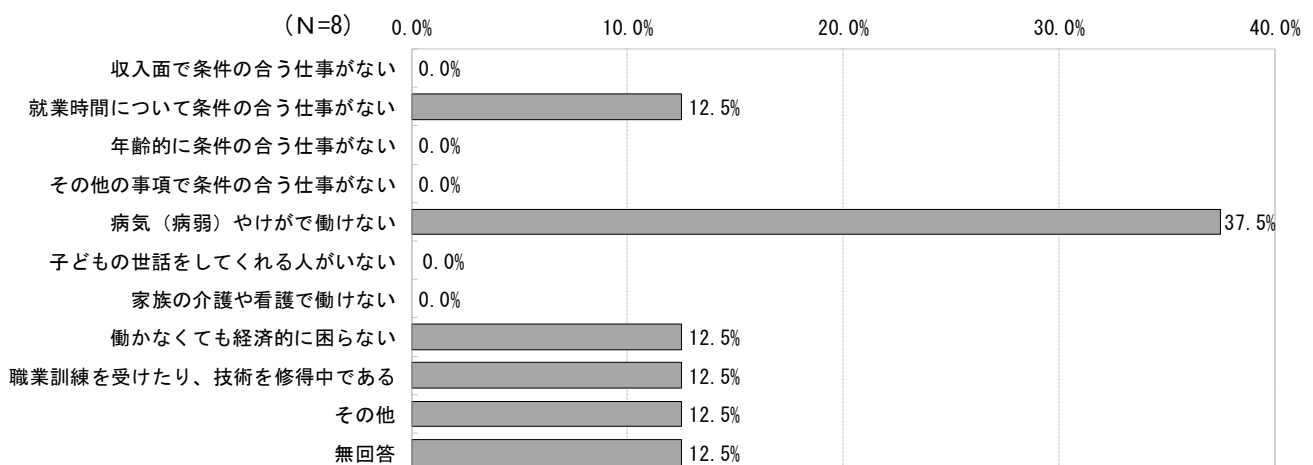
【図 6-10-1 仕事を変えたい理由】



6-11 無職の理由

6-1で無職と回答した者のうち、その理由は、「その他」を除いて、「病気（病弱）やけがで働けない」が37.5%と最も多くなっている。

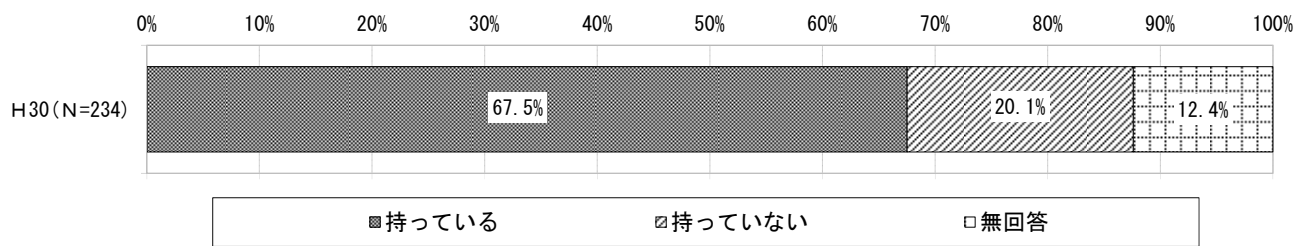
【図 6-11 無職の理由】



6-12 資格・技能の取得状況

資格・技能の取得の有無は、「持っている」が67.5%で、「持っていない」が20.1%となっている。

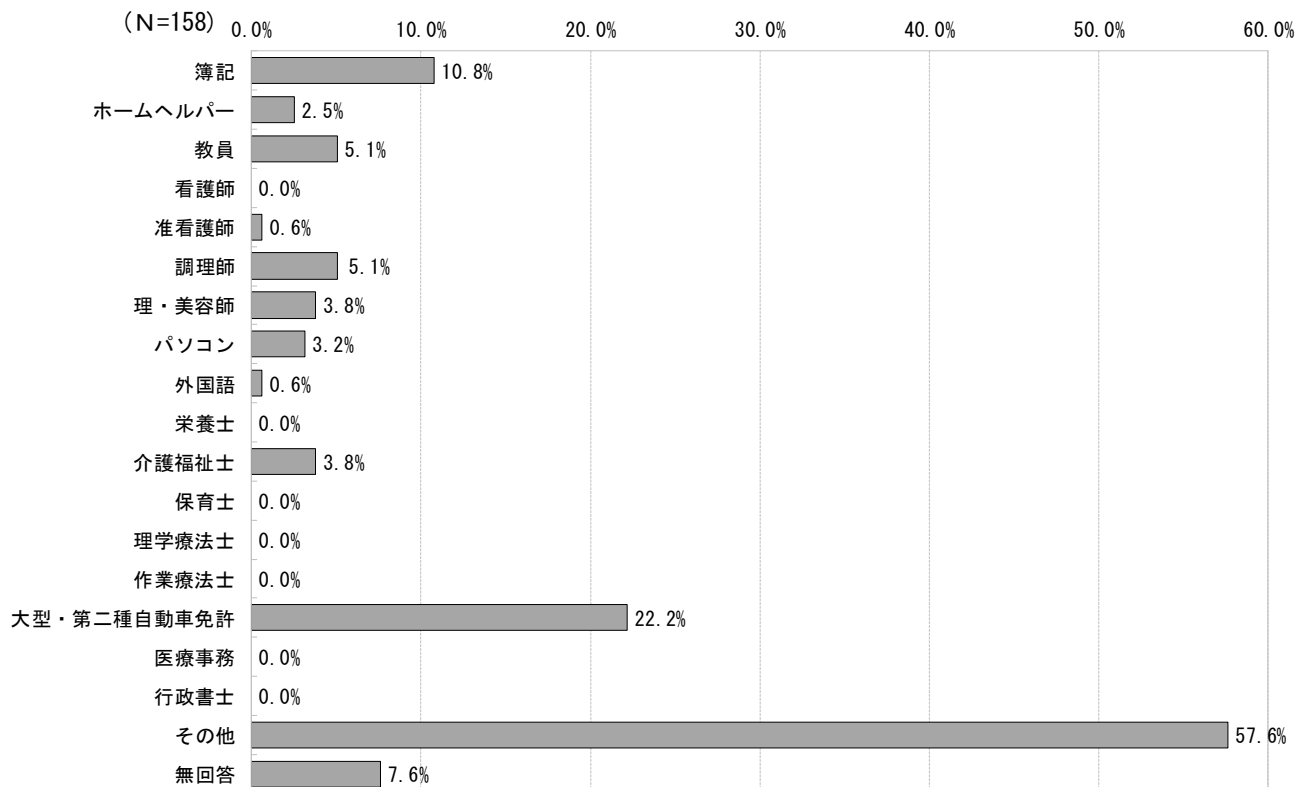
【図 6-12 資格・技能の取得の有無】



6-12-1 取得している資格・技能の種類

資格・技能を取得している人のうち、その種類は、「その他」を除いて、「大型・第二種自動車免許」が22.2%で最も多く、次いで「簿記」が10.8%、「教員」、「調理師」がそれぞれ5.1%となっている。その他の主な回答は、フォークリフト運転免許、建設機械等運転資格（クレーン、ローラー等）、電気工事士、危険物取扱者、土木施工管理技士、建築士等となっている。

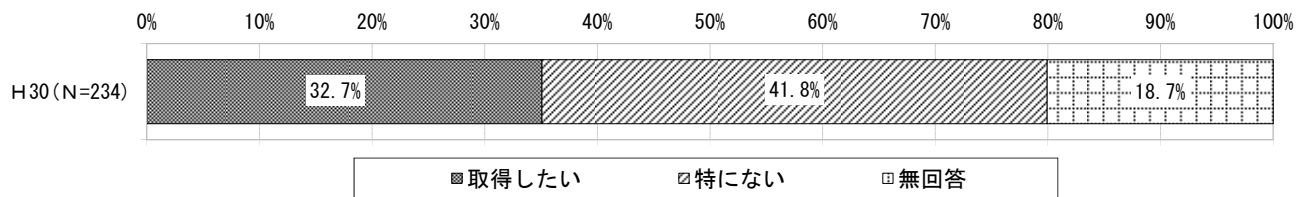
【図 6-12-1 取得している資格・技能の種類（複数回答）】



6-12-2 資格・技能の今後の取得希望の有無

資格・技能の今後の取得希望の有無は、「取得したい」が32.7%で「特にない」が41.8%となっている。

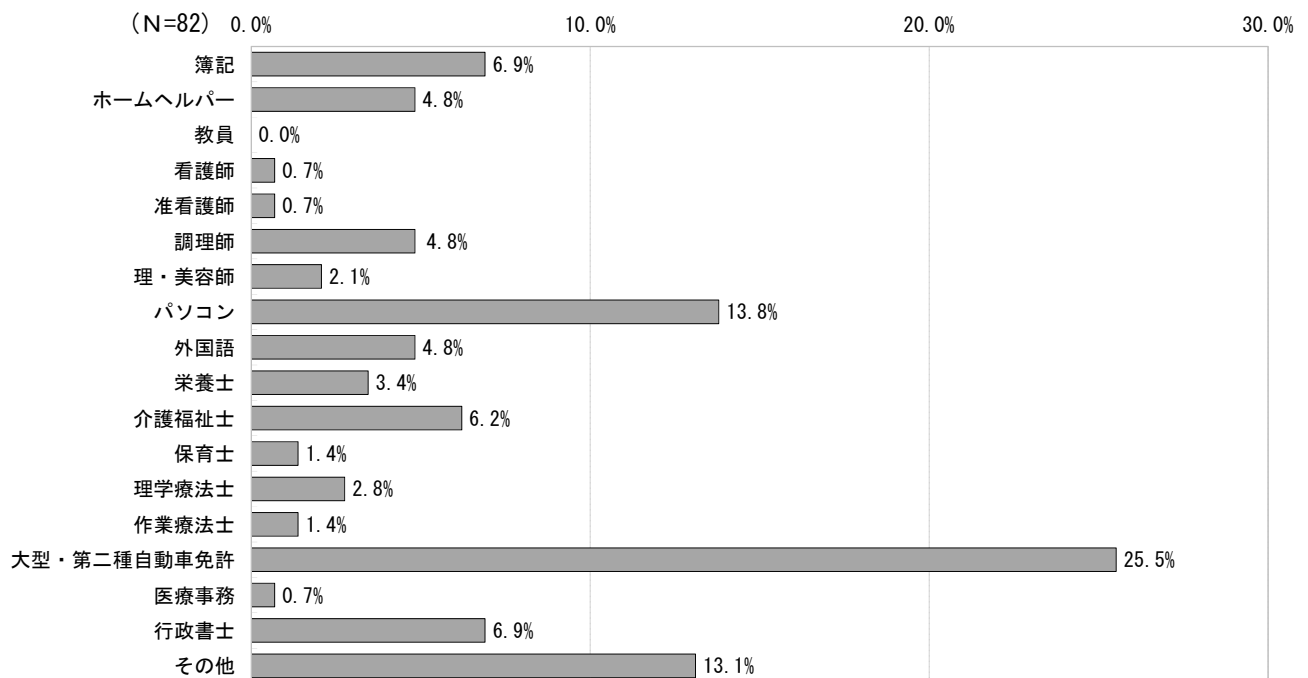
【図 6-12-2 資格・技能の今後の取得希望の有無】



6-12-3 今後に取得したい資格・技能の種類

今後に資格・技能の取得を希望する者のうち、取得したい種類は、「大型・第二種自動車運転免許」が25.5%で最も多く、次いで「パソコン」が13.8%となっている。その他の主な回答は、電気工事士等となっている。

【図 6-12-3 今後に取得したい資格・技能の種類（複数回答）】



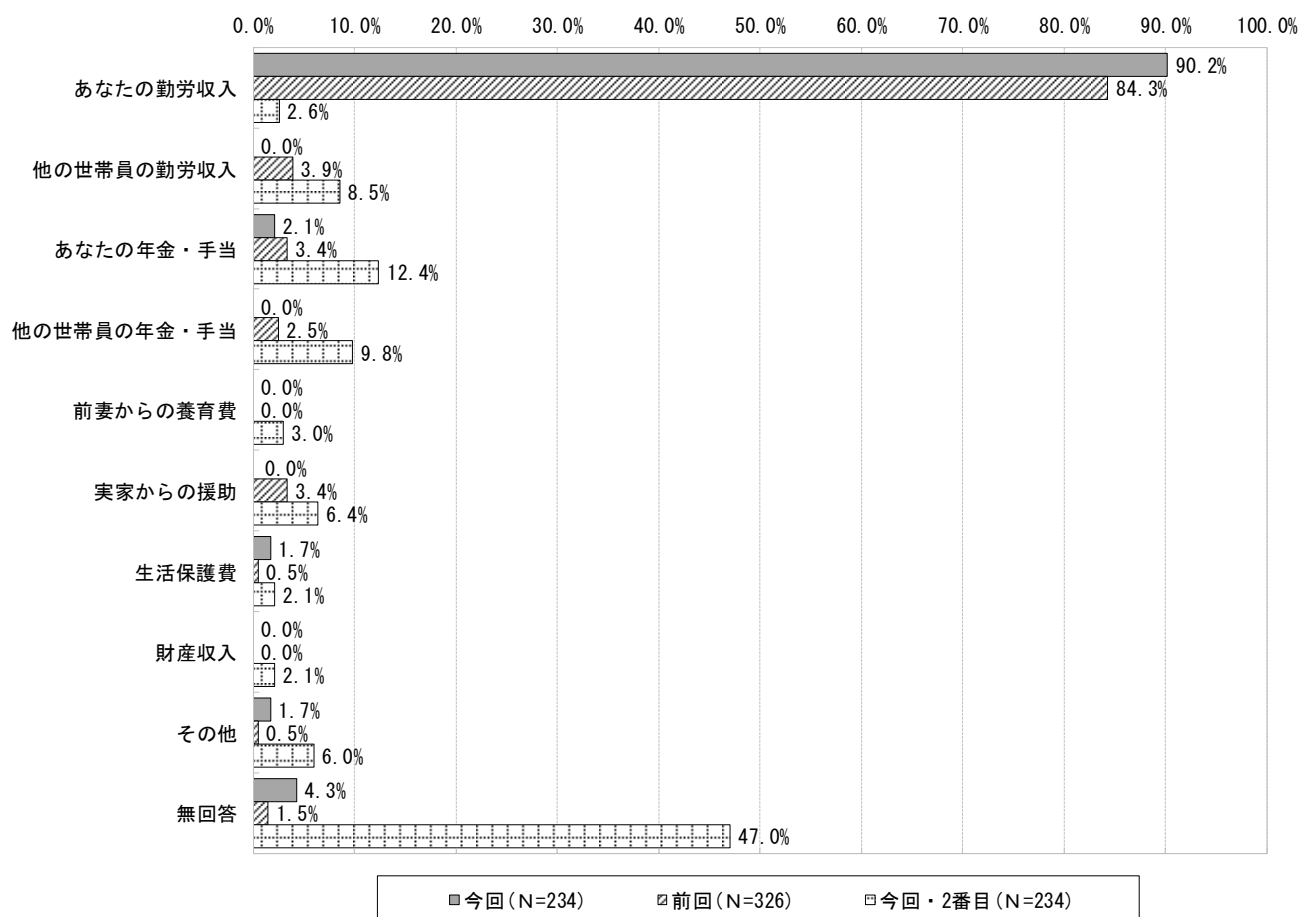
7 所得と生計の状況

7-1 家計の主な収入

家計の最も主な収入は、「あなたの勤労収入」が90.2%で最も多く、次いで「あなたの年金・手当」が2.1%となっている。前回調査と比較すると、「あなたの勤労収入」が5.9ポイント増加している。

家計の2番目に主な収入は、「あなたの年金・手当」が12.4%で最も多く、次いで「他の世帯員の年金・手当」が9.8%、「他の世帯員の勤労収入」8.5%となっている。

【図 7-1 家計の主な収入】

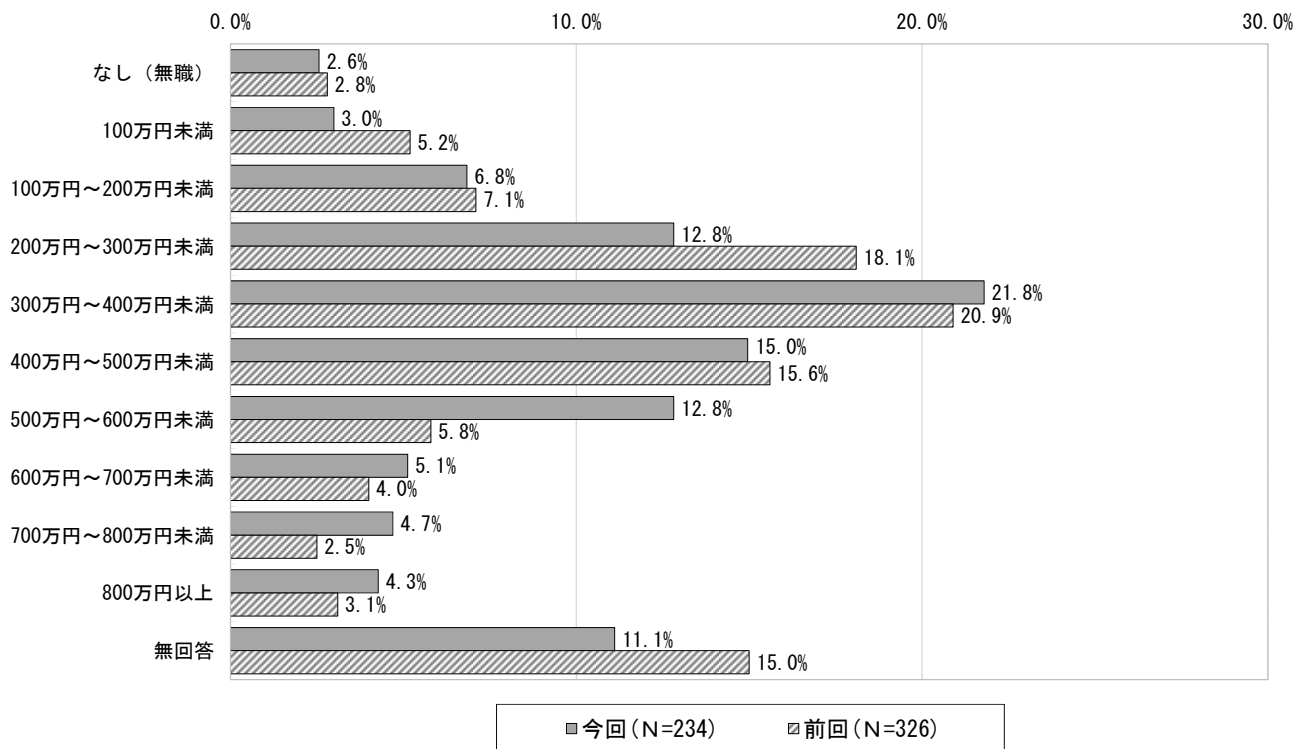


7-2 父子家庭の父の年間勤労収入

父子家庭の父の年間勤労収入は、「300万円～400万円未満」が21.8%で最も多く、次いで「400万円～500万円未満」が15.0%となっている。前回調査と比較すると、「500万円～600万円未満」が7.0ポイント増加し、「200万円～300万円」が5.3ポイント減少している。

年間勤労収入の平均は408万円で、前回の365万円より43万円増加している。

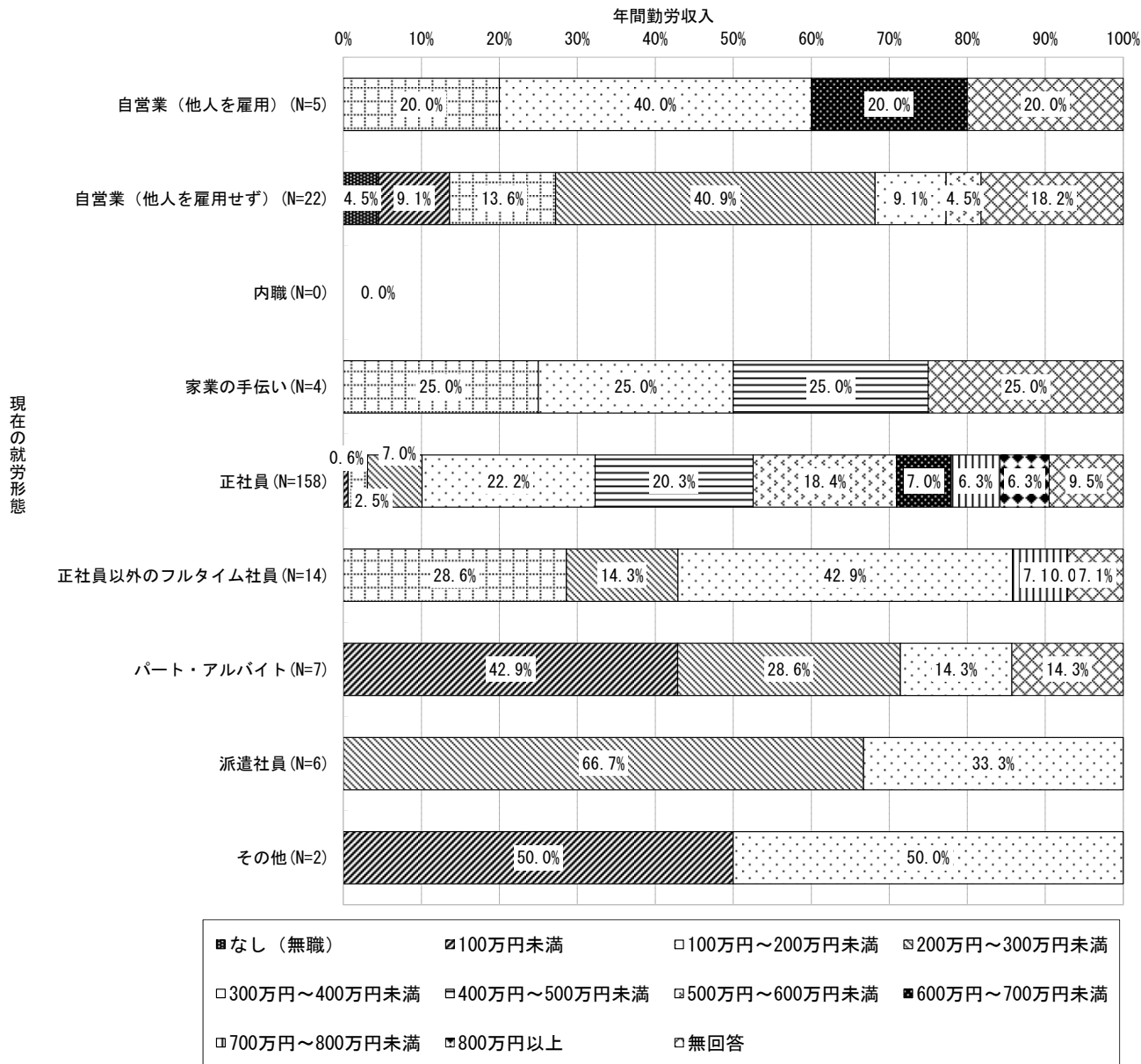
【図 7-2 父子家庭の父の年間勤労収入（平成 29 年分）】



7-2-1 現在の就労形態と年間勤労収入

現在の就労形態と年間勤労収入を併せてみると、200万円未満の割合が最も多いのは「パート・アルバイト」で42.9%となっている。一方、300万円以上の割合が最も多いのは「正社員」で80.5%となっている。

【図 7-2-1 現在の就労形態と年間勤労収入】

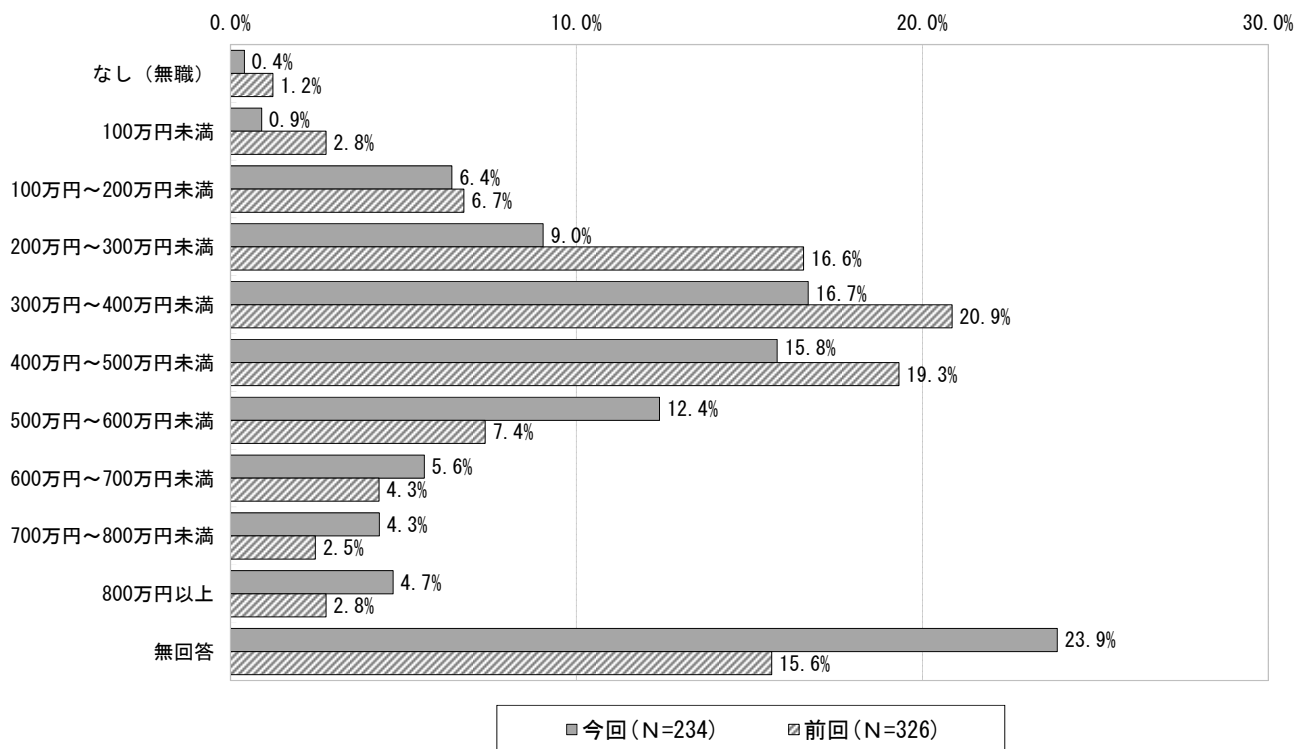


7-3 父の年間総収入

父子家庭の父の年間総収入は、「300万円～400万円未満」が16.7%と最も多く、次いで「400万円～500万円未満」が15.8%となっている。

年間総収入の平均は、445万円であり、前回の384万円より61万円増加している。

【図7-3 父の年間総収入（平成29年分）】

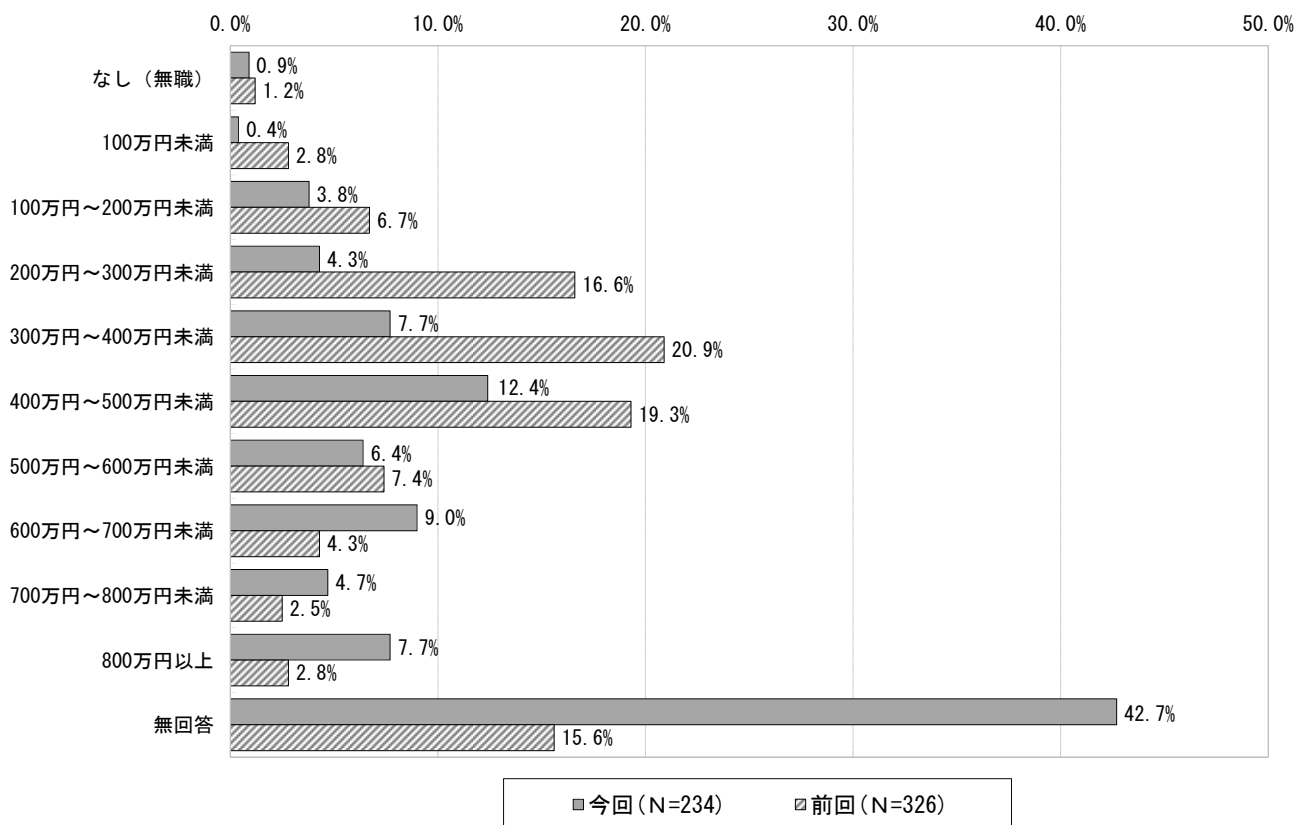


7-4 世帯の年間総収入

世帯の年間総収入は、無回答を除くと「400万円～500万円未満」が12.4%で最も多く、次いで「600万円～700万円未満」が9.0%、「300万円～400万円未満」および「800万円以上」が7.7%となっている。前回調査と比較すると、「300万円～400万円未満」が13.2ポイント減少し、「800万円以上」が4.9ポイント増加している。

世帯の年間総収入の平均は525万円で、前回の478万円より47万円増加している。

【図7-4 世帯の年間総収入（平成29年分）】

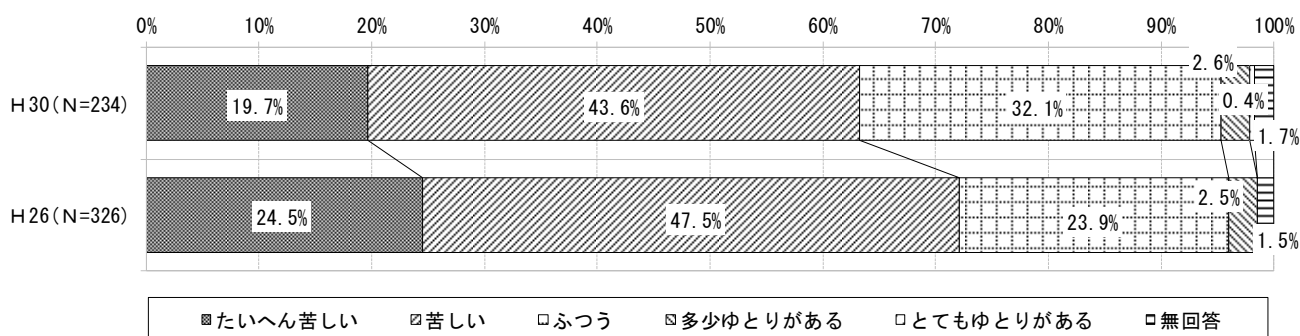


※世帯の年間総収入は、世帯全員の収入の合計であり、親の年金や子どものアルバイト収入等も含む。

7-5 暮らし向きに対する意識

暮らし向きに対する意識は、「苦しい」が43.6%で最も多く、次いで「ふつう」が32.1%、「大変苦しい」が19.7%となっている。前回調査と比較すると、「たいへん苦しい」が4.8ポイント減少し、「ふつう」が8.2ポイント増加している。

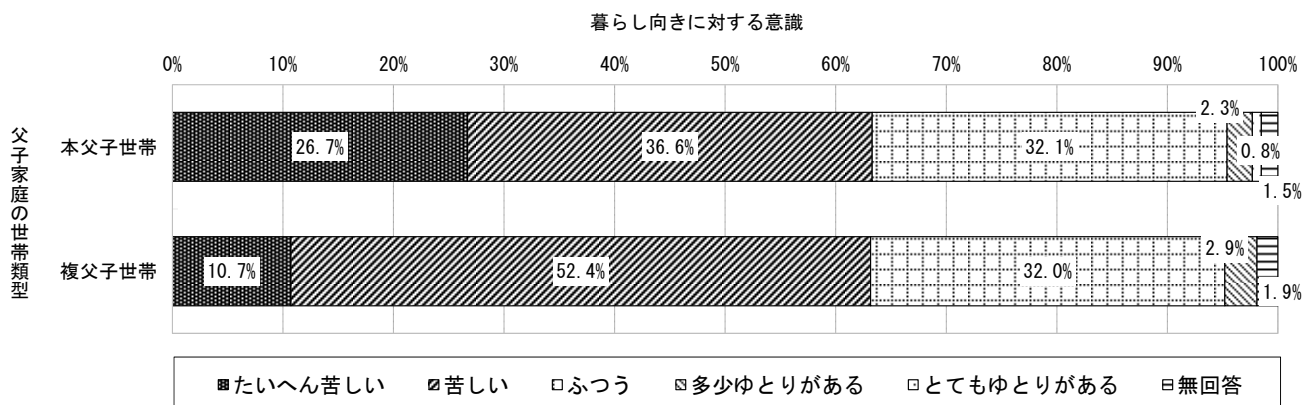
【図7-5 暮らし向きに対する意識】



7-5-1 父子家庭の世帯類型と暮らし向きに対する意識

世帯類型別にみると、「本父子世帯」（父と子だけの世帯）は「複父子世帯」（父と子以外に同居家族のいる世帯）に比べて、「たいへん苦しい」が16.0ポイント多くなっている。

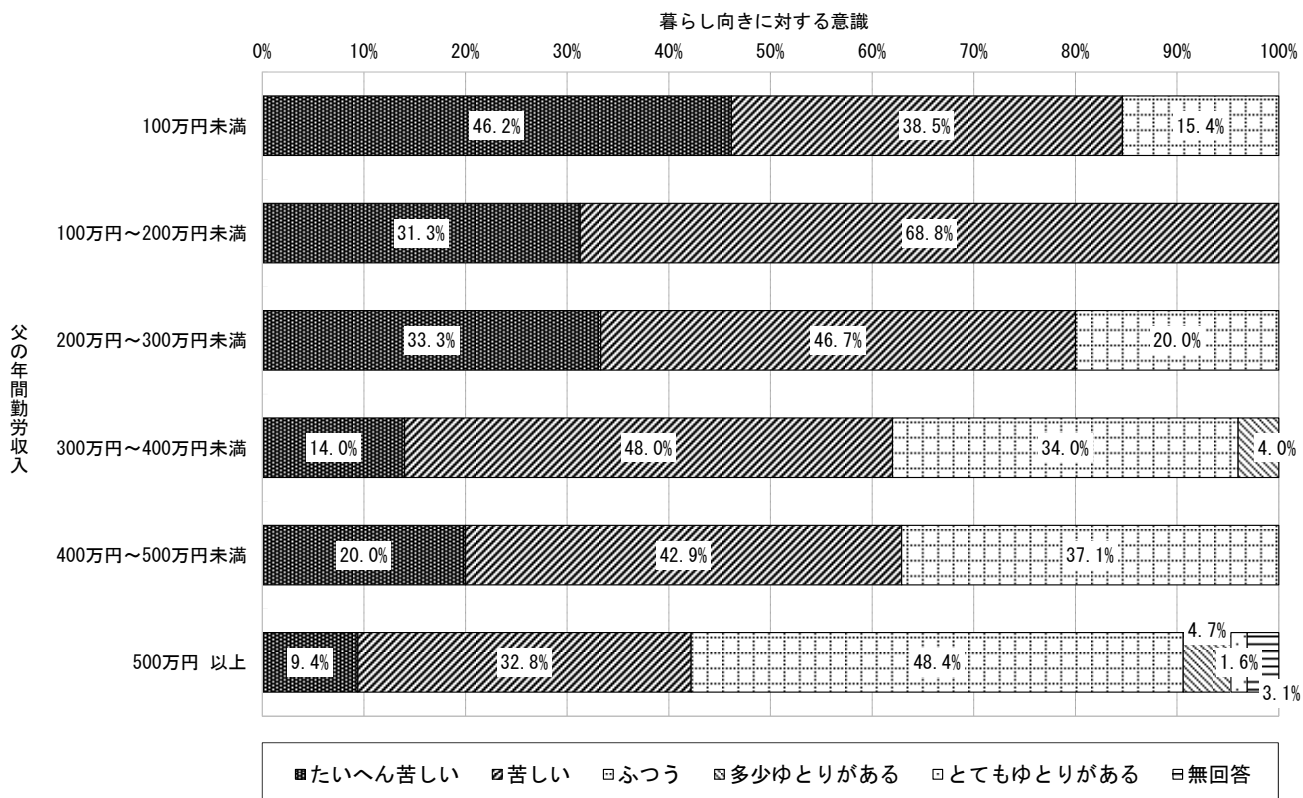
【図 7-5-1 父子家庭の世帯類型と暮らし向きに対する意識】



7-5-2 父子家庭の父の年間勤労収入と暮らし向きに対する意識

父の年間勤労収入別でみると、勤労収入が「500万円未満」までの層では、「たいへん苦しい」と「苦しい」の合計が60%を超えるが、「500万円以上」の層では、「ふつう」、「多少ゆとりがある」の合計が過半数を超える。

【図 7-5-2 父の年間勤労収入と暮らし向きに対する意識】

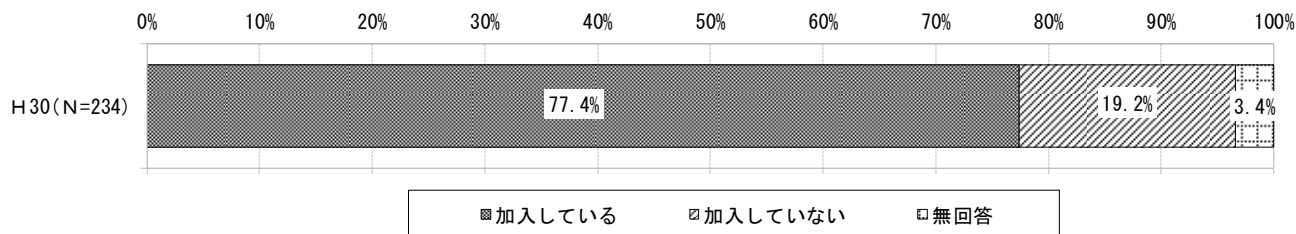


7-6 社会保険の加入状況

7-6-1 雇用保険の加入状況

雇用保険の加入状況は、「加入している」が77.4%となっており、「加入していない」が19.2%となっている。

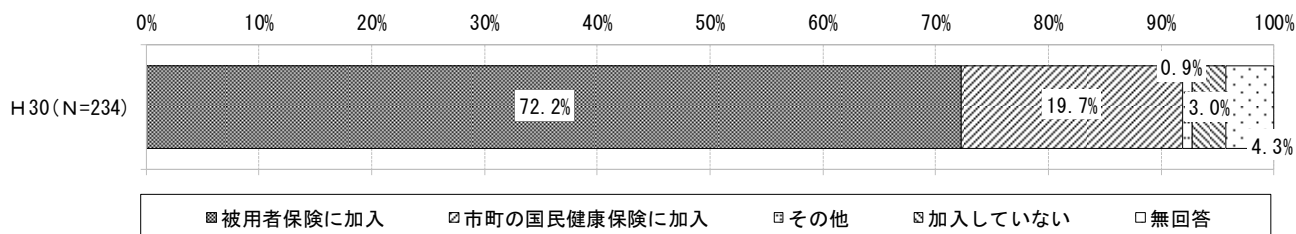
【図 7-6-1 雇用保険の加入状況】



7-6-2 健康保険の加入状況

健康保険の加入状況は、「加入している」が72.2%となっており、「加入していない」が19.7%となっている。

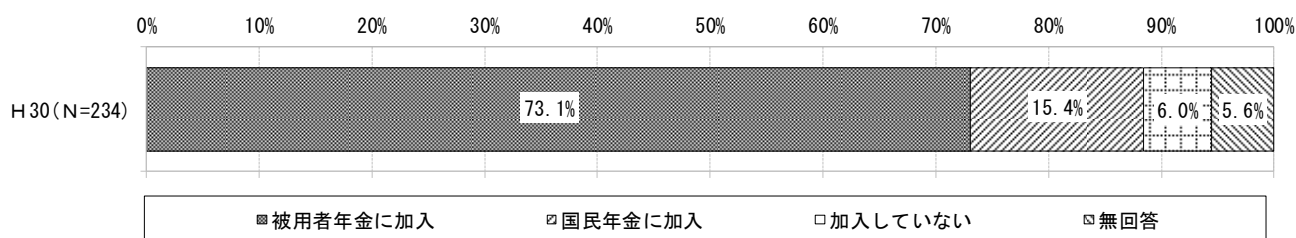
【図 7-6-2 健康保険の加入状況】



7-6-3 公的年金の加入状況

公的年金の加入状況は、「被用者年金に加入」が73.1%となっており、「国民年金に加入」が15.4%となっている。

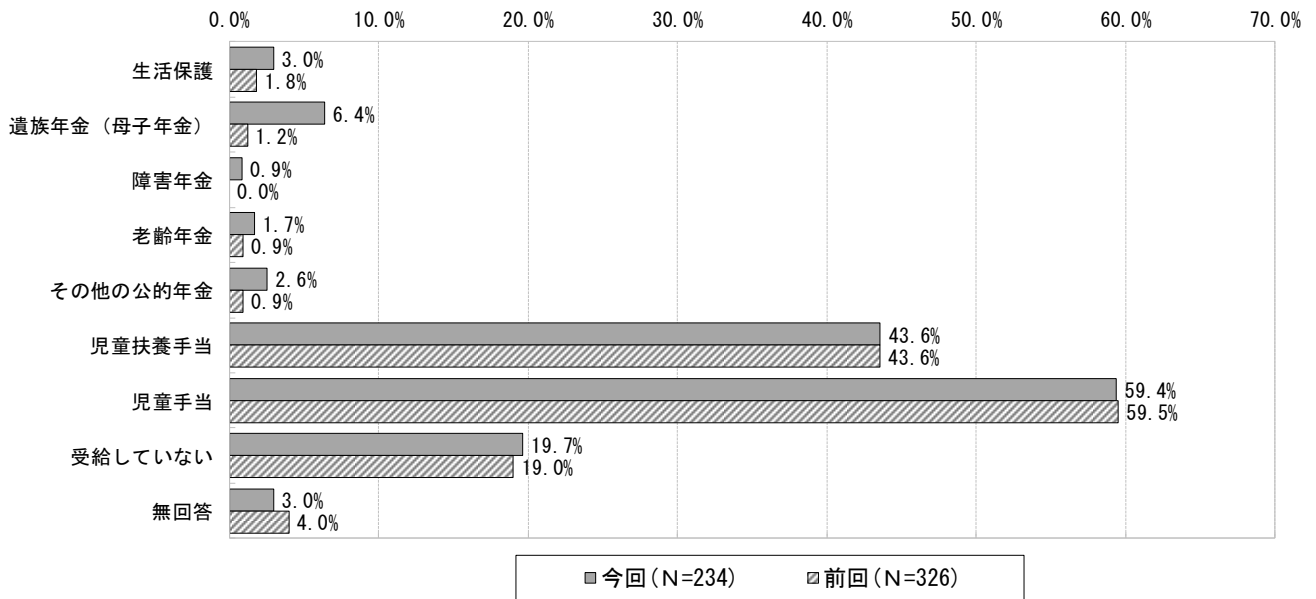
【図 7-6-3 公的年金の加入状況】



7-7 手当等の受給状況

手当等の受給状況は、「児童手当」が59.4%と最も多く、次いで「児童扶養手当」が43.6%、「受給していない」が19.7%となっている。

【図 7-7 手当等の受給状況（複数回答）】

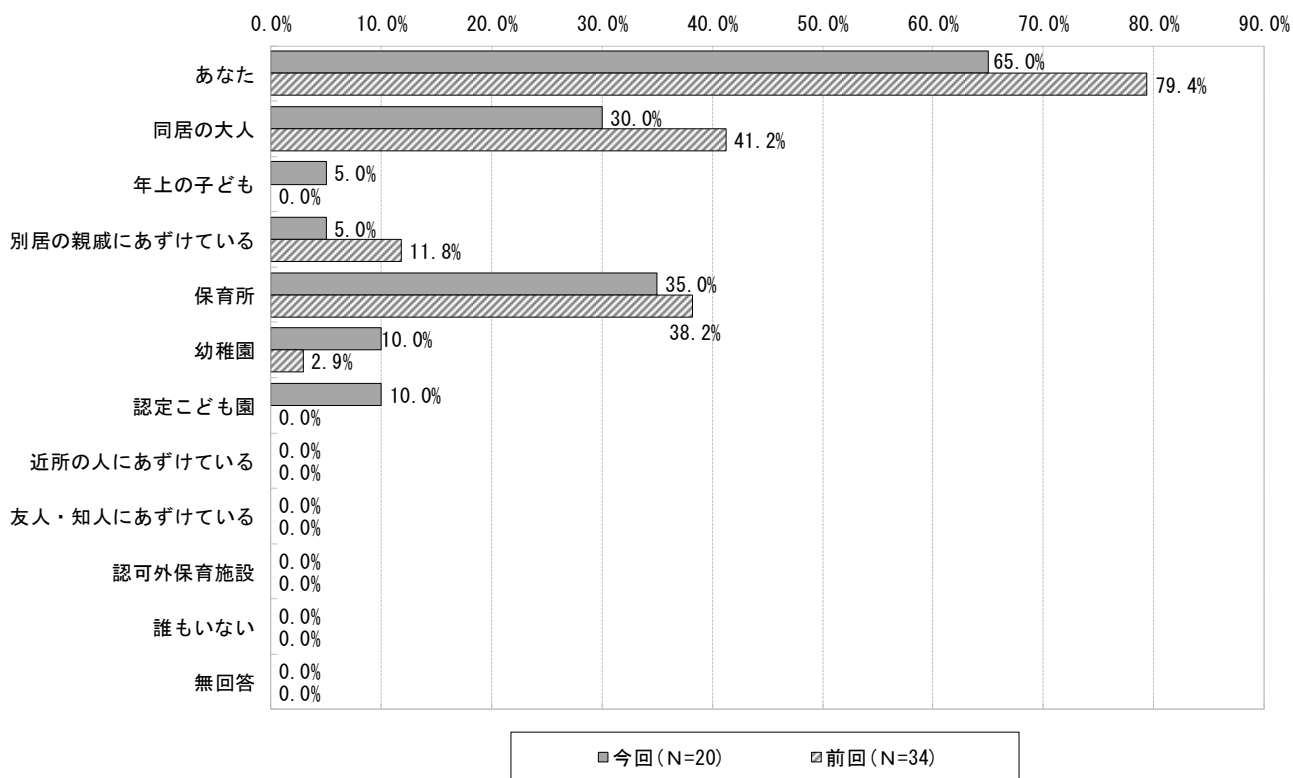


8 子どもの状況

8-1 就学前児童の世話をする人

就学前児童の世話をする人は、「あなた（父親）」が65.0%で最も多く、次いで「保育所」が35.0%、「同居の大人」が30.0%となっている。前回調査と比較すると、「あなた（父親）」が14.4ポイント、「同居の大人」が11.2ポイント減少している。

【図 8-1 就学前児童の世話をする人（複数回答）】

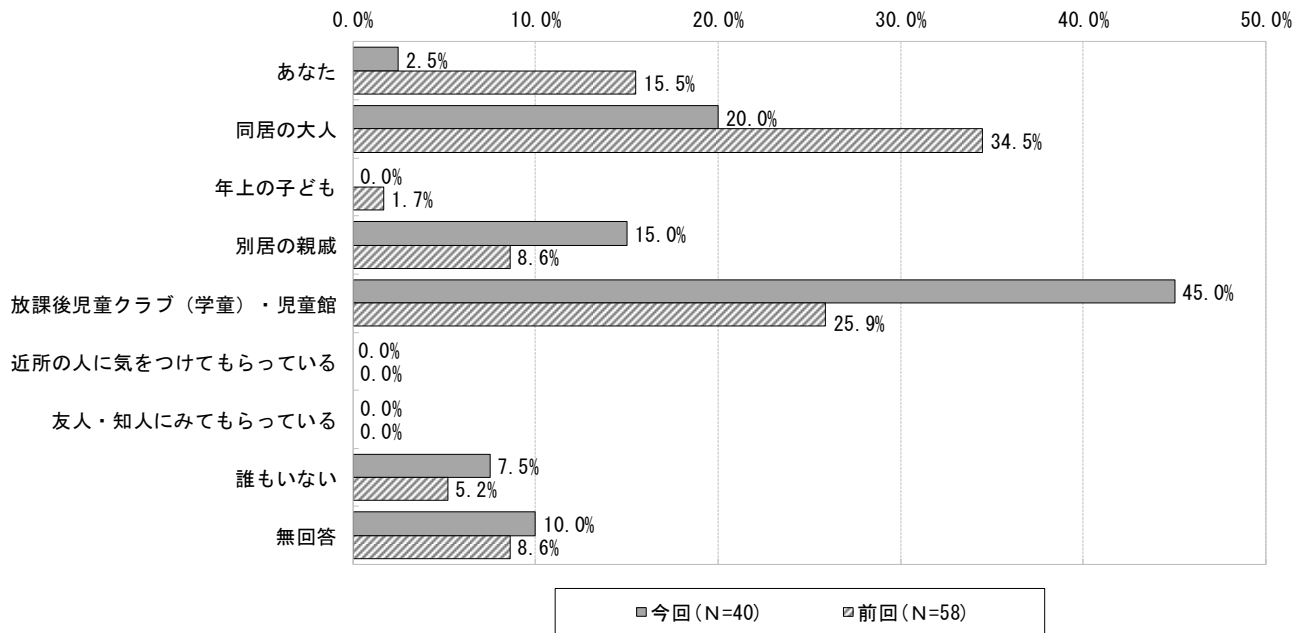


※認定こども園の項目は今回調査から追加している。

8-2 小学校低学年児童の放課後の世話をする人

小学校低学年児童の放課後の世話をする人は、「放課後児童クラブ（学童）・児童館」が45.0%で最も多く、次いで「同居の大人」が20.0%、「別居の親戚」15.0%となっている。前回調査と比較すると「放課後児童クラブ（学童）・児童館」が19.1ポイント増加し、「同居の大人」が14.5ポイント減少している。

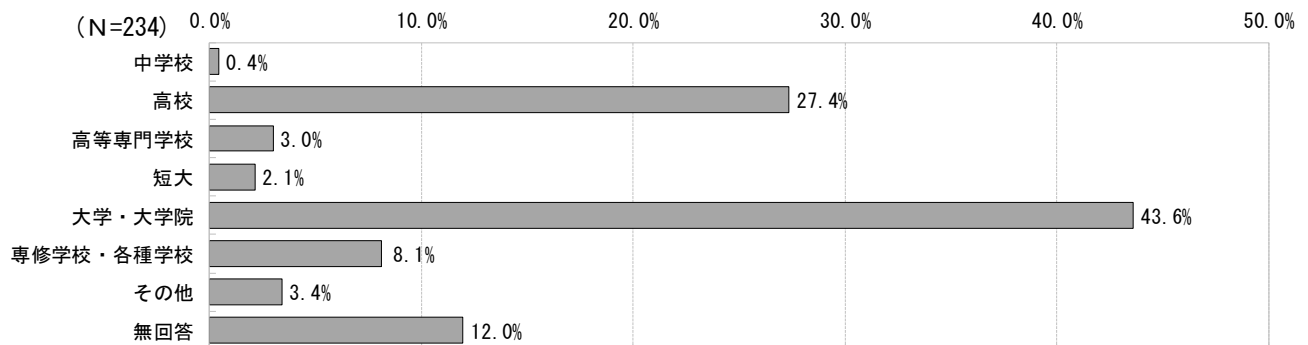
【図8-2 小学校低学年児童の放課後の世話をする人】



8-3 子どもに対する進学先の希望

子どもに対する進学先の希望は、「大学・大学院」が43.6%で最も多く、次いで「高校」が27.4%、「専修学校・各種学校」が8.1%となっている。

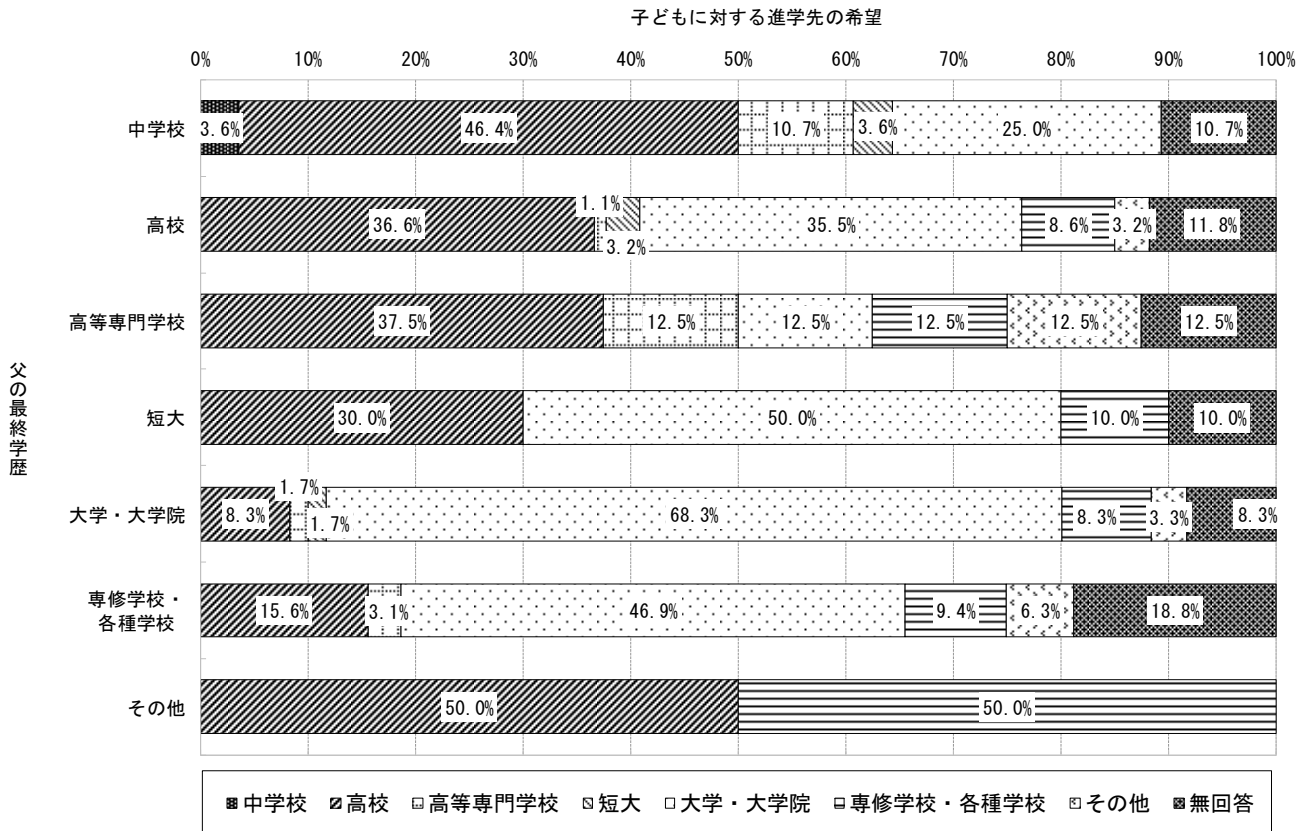
【図8-3 子どもに対する進学先希望】



8-3-1 父の最終学歴と子どもに対する進学先の希望

父の最終学歴と子どもに対する進学先の希望を併せてみると、子どもに対する進学先希望で「高校」が多いのは、親の最終学歴が「中学校」で46.4%、「高校」で36.6%、「高等専門学校」で37.5%、子どもに対する進学先希望で「大学・大学院」が多いのは、親の最終学歴が「大学・大学院」で68.3%、「短大」で50.0%、「専修学校・各種学校」で46.9%となっている。

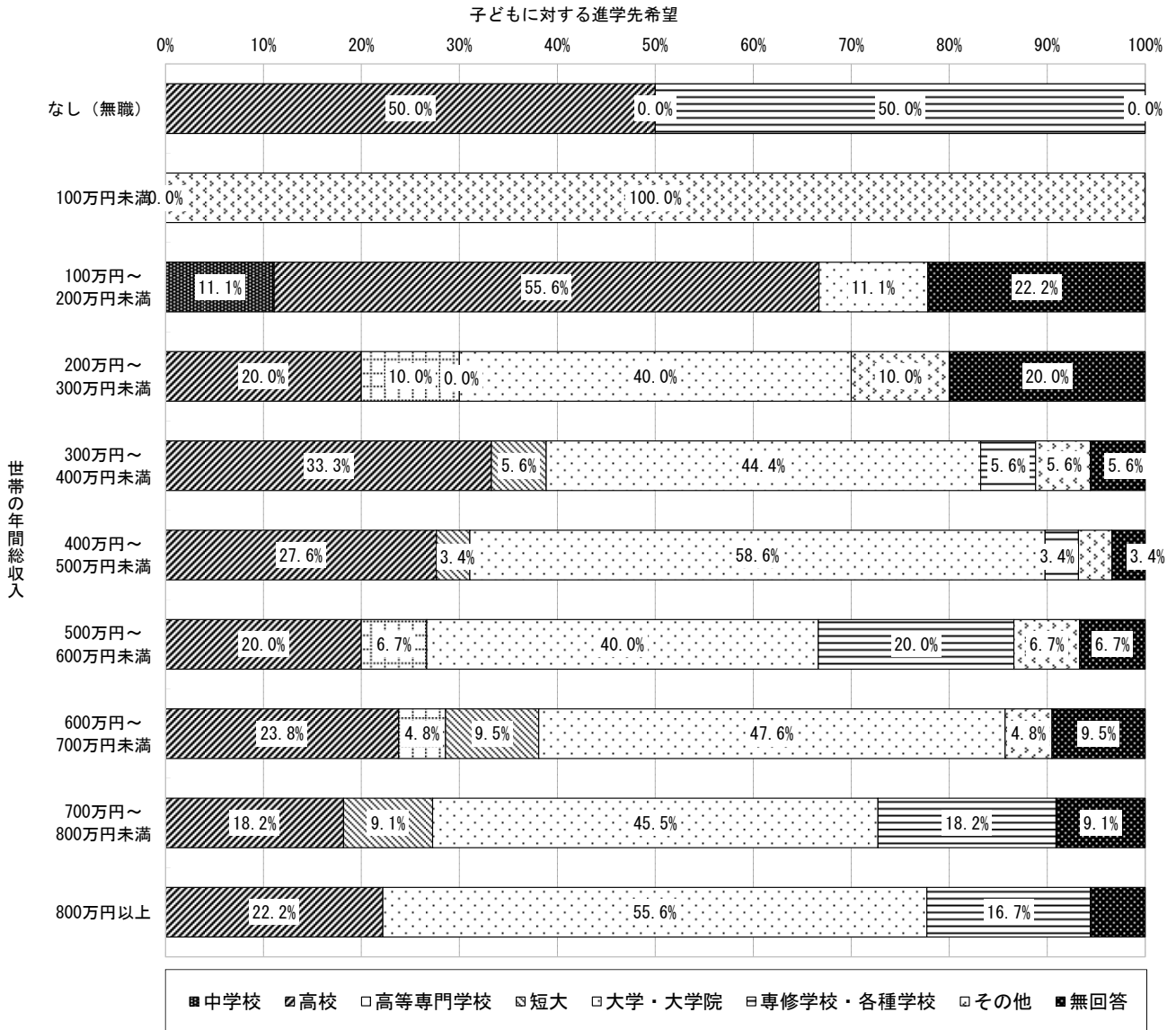
【図 8-3-1 父の最終学歴と子どもに対する進学先の希望】



8-3-2 世帯の年間総収入と子どもに対する進学先の希望

世帯の年間総収入と子どもに対する進学先の希望を併せてみると、子どもに対する進学先希望で「高校」が多いのは「100万円～200万円未満」で55.6%、子どもに対する進学先希望で「大学・大学院」が多いのは「400万円～500万円未満」で58.6%、「800万円以上」は55.6%、「600万円～700万円未満」は47.6%、となっている。

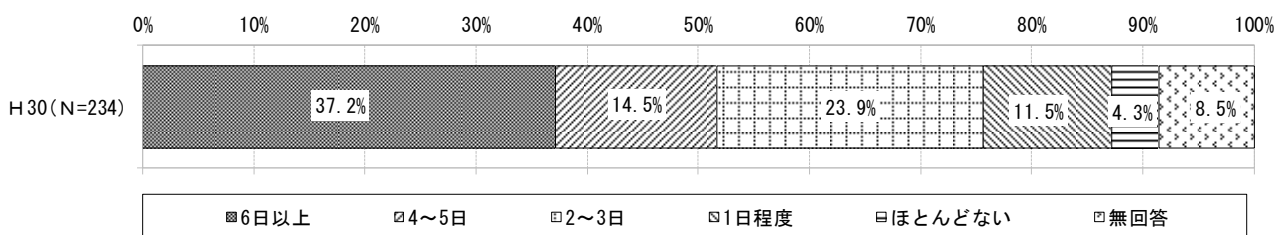
【図 8-3-2 世帯の年間総収入と子どもに対する進学先の希望】



8-4 子どもと夕食をとる頻度

子どもと一緒に夕食をとるのは一週間のうち、「6日以上」が37.2%で最も多く、次いで「2～3日」が23.9%、「4～5日」が14.5%となっている。

【図 8-4 一週間に子どもと夕食をとる頻度】

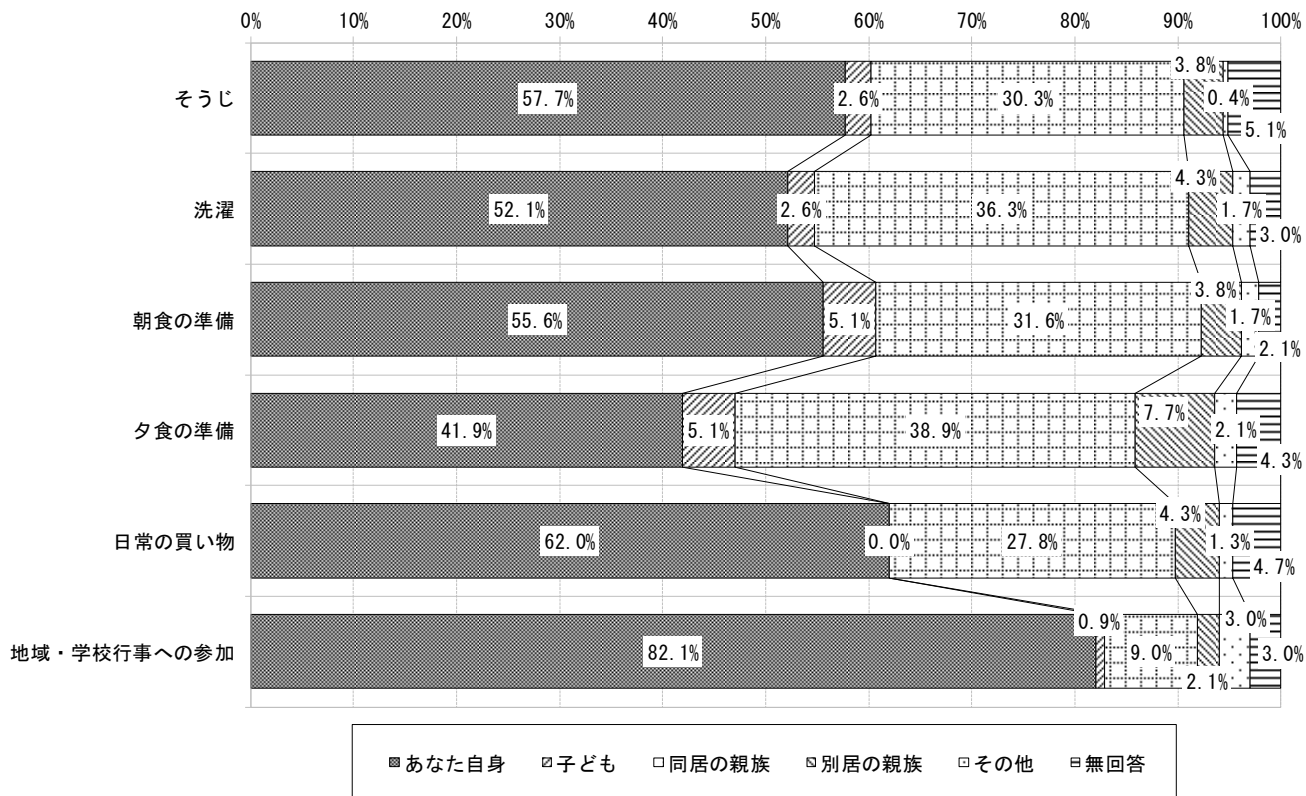


9 家事・健康の状況

9-1 家事の担当者

家事の担当者は、全ての項目で「あなた（父親）自身」、が最も多く、次いで「同居の親族」となっている。

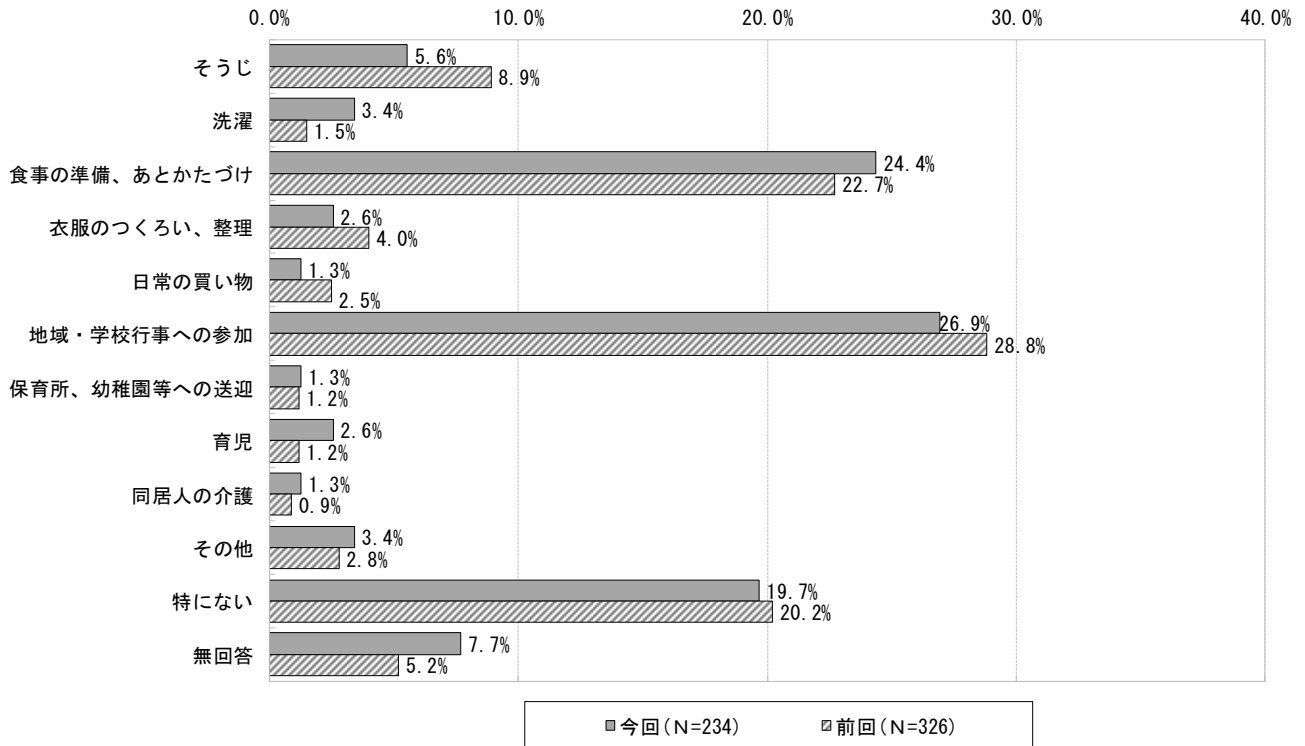
【図 9-1 家事の担当者】



9-2 最も負担に感じる家事

最も負担に感じる家事は、「地域・学校行事への参加」が26.9%で最も多く、次いで「食事の準備、あとかたづけ」が24.4%、「特にない」が19.7%となっている。前回調査と比較すると、「そうじ」が3.3ポイント減少し、「洗濯」が1.9ポイント増加している。

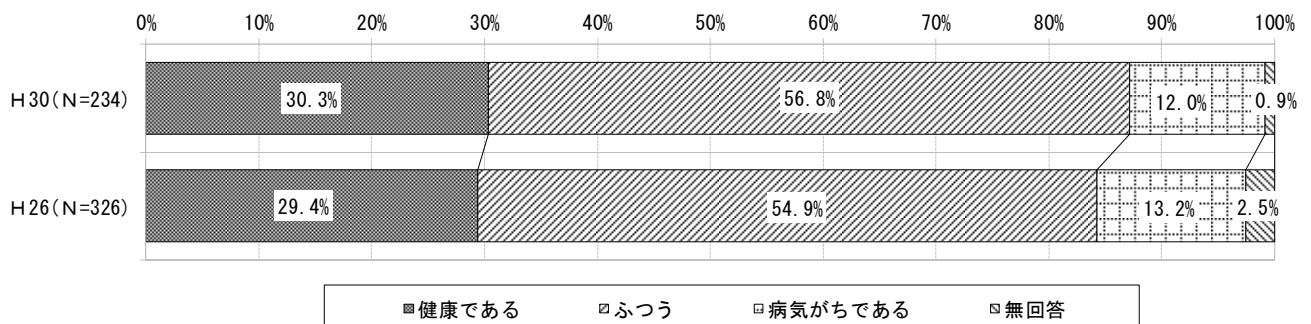
【図9-2 最も負担に感じる家事】



9-3 父の健康状態

父子家庭の父の健康状態は、「ふつう」が56.8%で最も多く、次いで「健康である」が30.3%、「病気がちである」が12.0%となっている。前回調査と比較すると、「ふつう」が1.9ポイント増加し、「病気がちである」が1.2ポイント減少している。

【図9-3 父の健康状態】

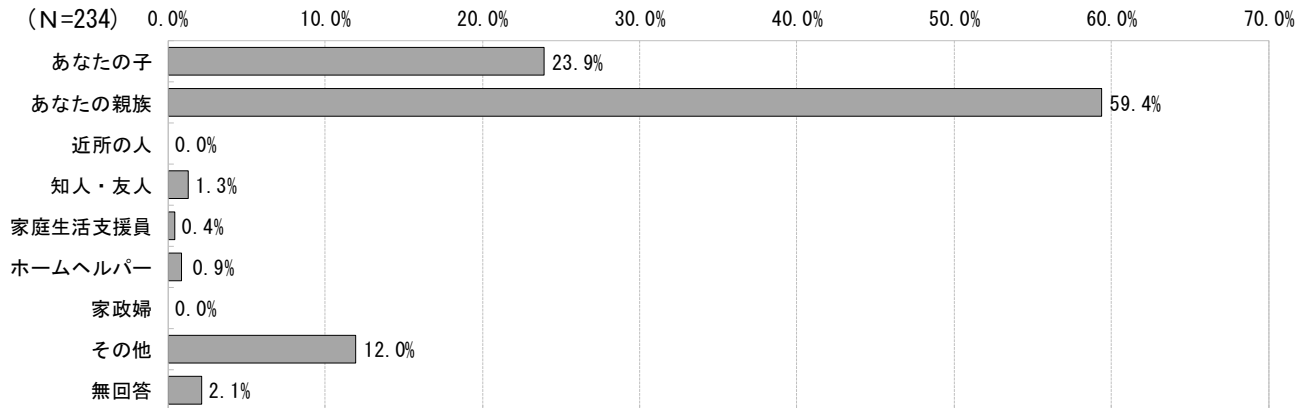


9-4 病気の時の世話

9-4-1 父子家庭の父が病気になったとき、父の世話をしてくれる人

父子家庭の父が病気になったとき、父の世話をしてくれる人は、「あなたの親族」が59.4%で最も多く、次いで「あなたの子」が23.9%となっている。

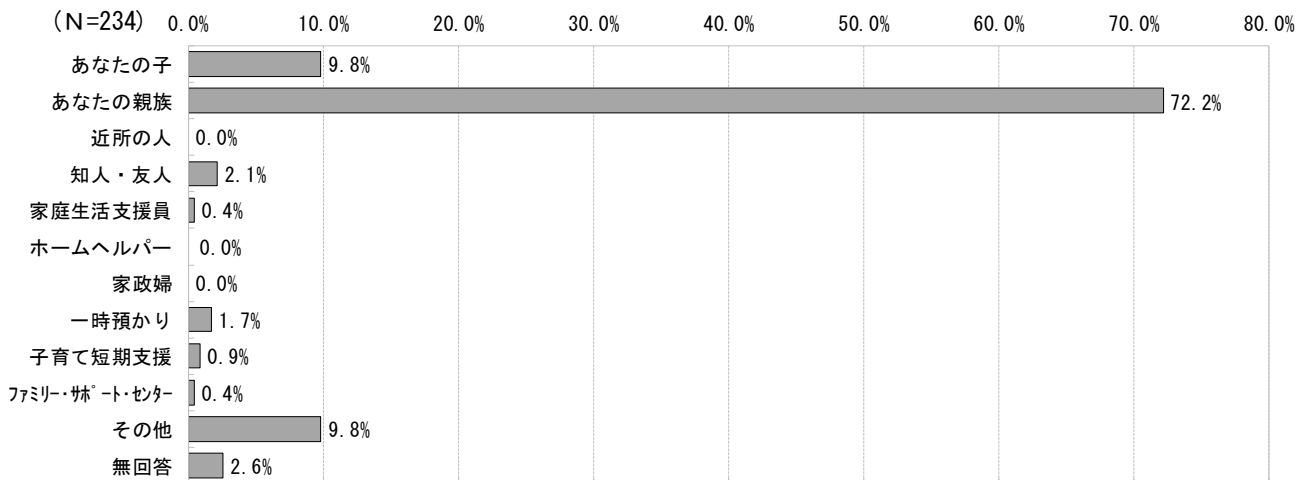
【図9-4-1 父が病気になったとき、父の世話をしてくれる人】



9-4-2 父子家庭の父が病気になったとき、子どもの世話をしてくれる人

父子家庭の父が病気になったとき、子どもの世話をしてくれる人は「あなたの親族」が72.2%で最も多く、次いで「あなたの子」が9.8%となっている。

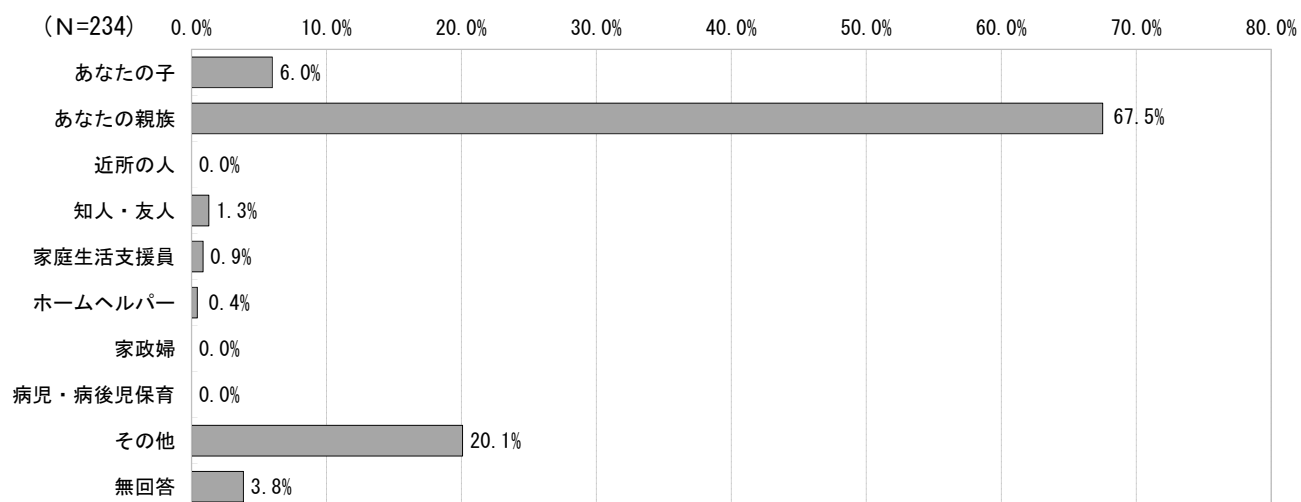
【図9-4-2 父が病気になったとき、子どもの世話をしてくれる人】



9-4-3 子供が病気になったとき、子どもの世話をしてくれる人

父子家庭の子どもが病気になったとき、子どもの世話をしてくれる人は、「その他」を除いて、「あなたの親族」が67.5%で最も多く、次いで「あなたの子」が6.0%となっている。なお、「その他」の主な回答は「父自身」、「誰もいない」であった。

【図 9-4-3 子供が病気になったとき、子どもの世話をしてくれる人】



10 父子福祉施策等

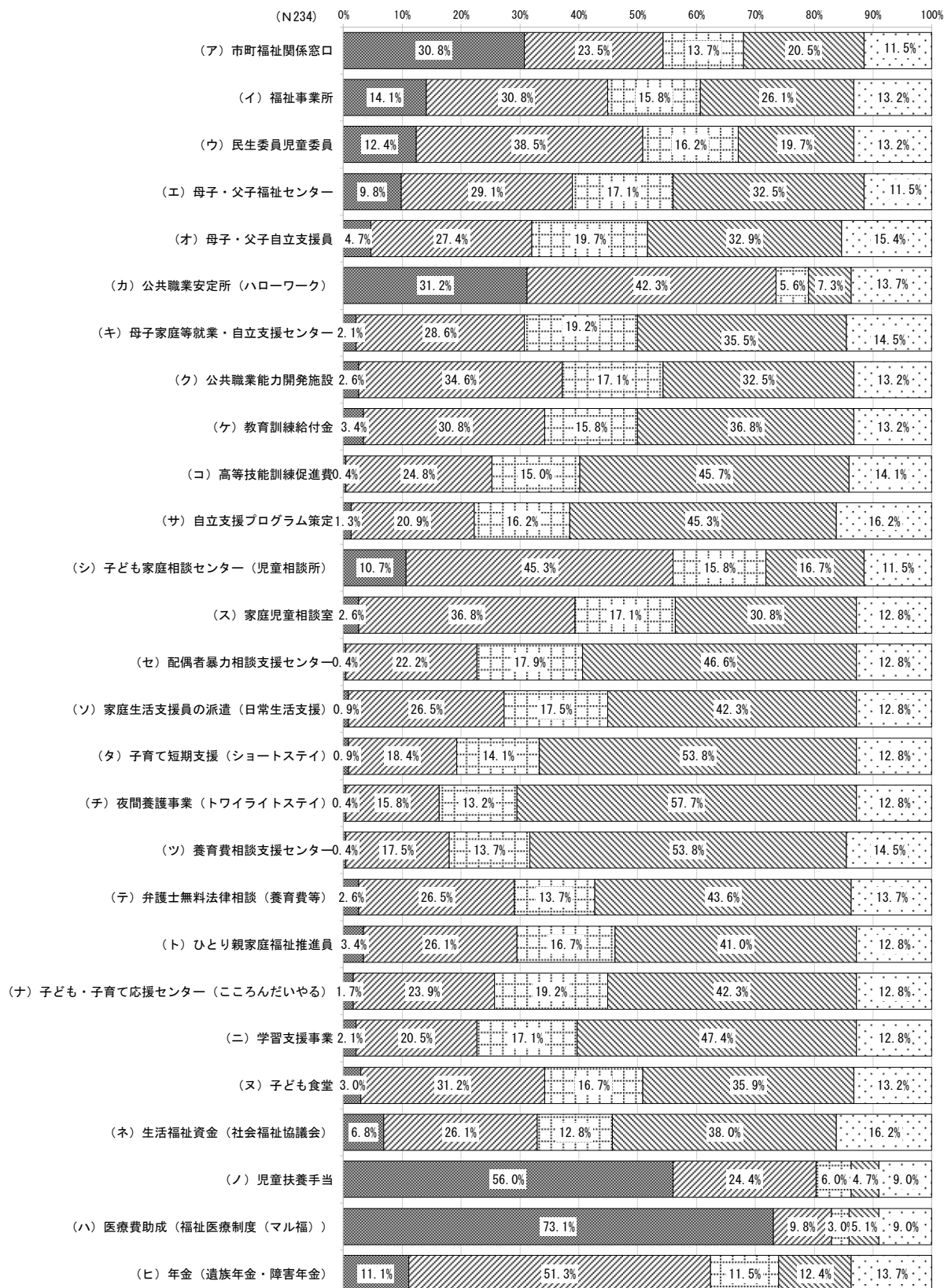
10-1 制度の利用状況

制度の利用状況をみると、利用経験（「利用しているまたは利用したことがある」）は、「医療費助成（福祉医療制度（マル福）」）が73.1%で最も多く、次いで「児童扶養手当」が56.0%、「公共職業安定所（ハローワーク）」が31.2%、「市町福祉関連窓口」が30.8%となっている。

「制度を知らない」が最も多いのは、「夜間養護事業（トワイライトステイ）」が57.7%で、次いで「子育て短期支援（ショートステイ）」、「養育費相談支援センター」がそれぞれ53.8%となっている。

「知っているが利用したことがない」が最も多いのは、「年金（遺族年金・障害年金）」が51.3%で、次いで「子ども家庭相談センター（児童相談所）」が45.3%、「公共職業安定所（ハローワーク）」が42.3%となっている。

【図 10-1 制度の利用状況】

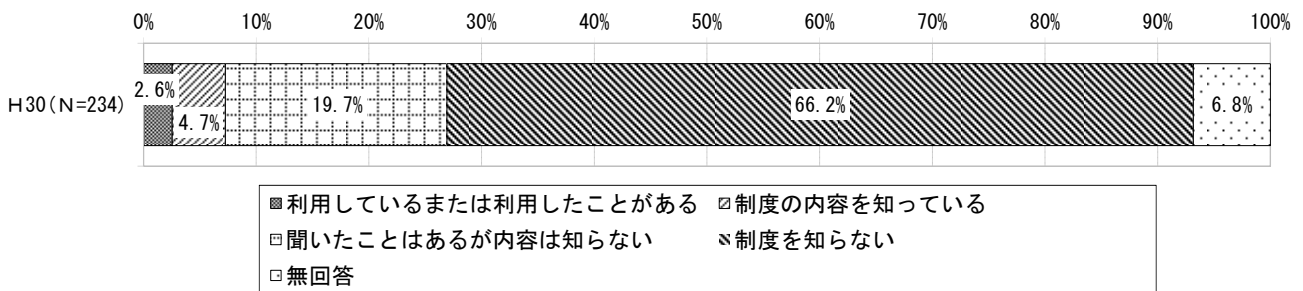


■利用しているまたは利用したことがある □知っているが利用したことはない □聞いたことはあるが内容は知らない □制度を知らない □無回答

10-2 父子福祉資金の利用の有無

父子福祉資金の利用の有無については、「利用しているまたは利用したことがある」が2.6%となっており、「制度を知らない」が66.2%となっている。

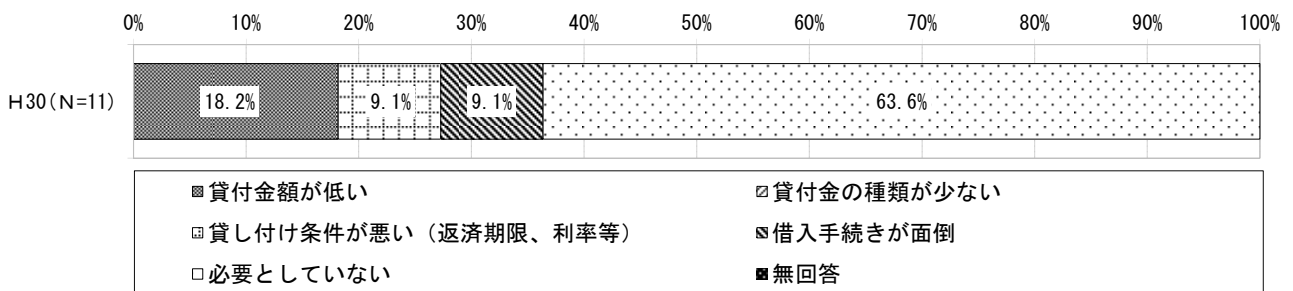
【図 10-2 父子福祉資金の利用の有無】



10-2-1 父子福祉資金を利用したことがない理由

父子福祉資金の内容を知っているが利用したことがない人のうち、利用したことがない理由は、「必要としていない」が63.6%と最も多く、次いで「貸付金額が低い」が18.2%となっている。

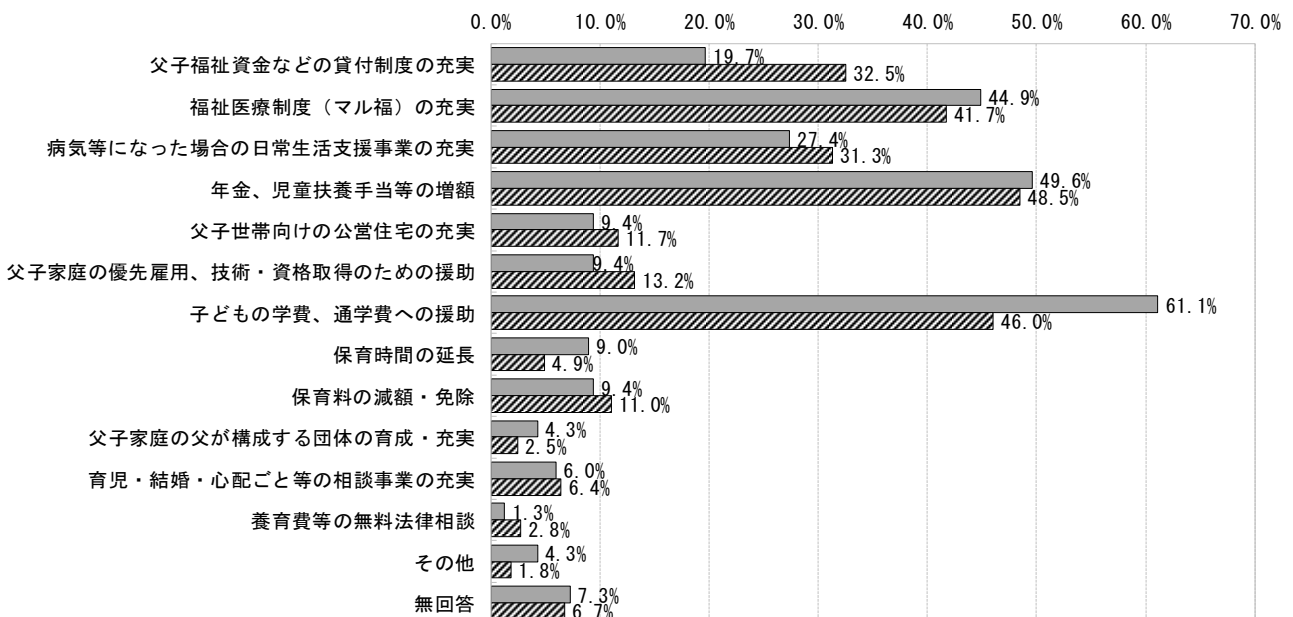
【図 10-2-1 父子福祉資金を利用したことがない理由】



10-3 希望する施策

希望する施策は、「子どもの学費、通学費への援助」が61.1%で最も多く、次いで「年金、児童扶養手当等の増額」が49.6%、「福祉医療制度（マル福）の充実」が44.9%となっている。

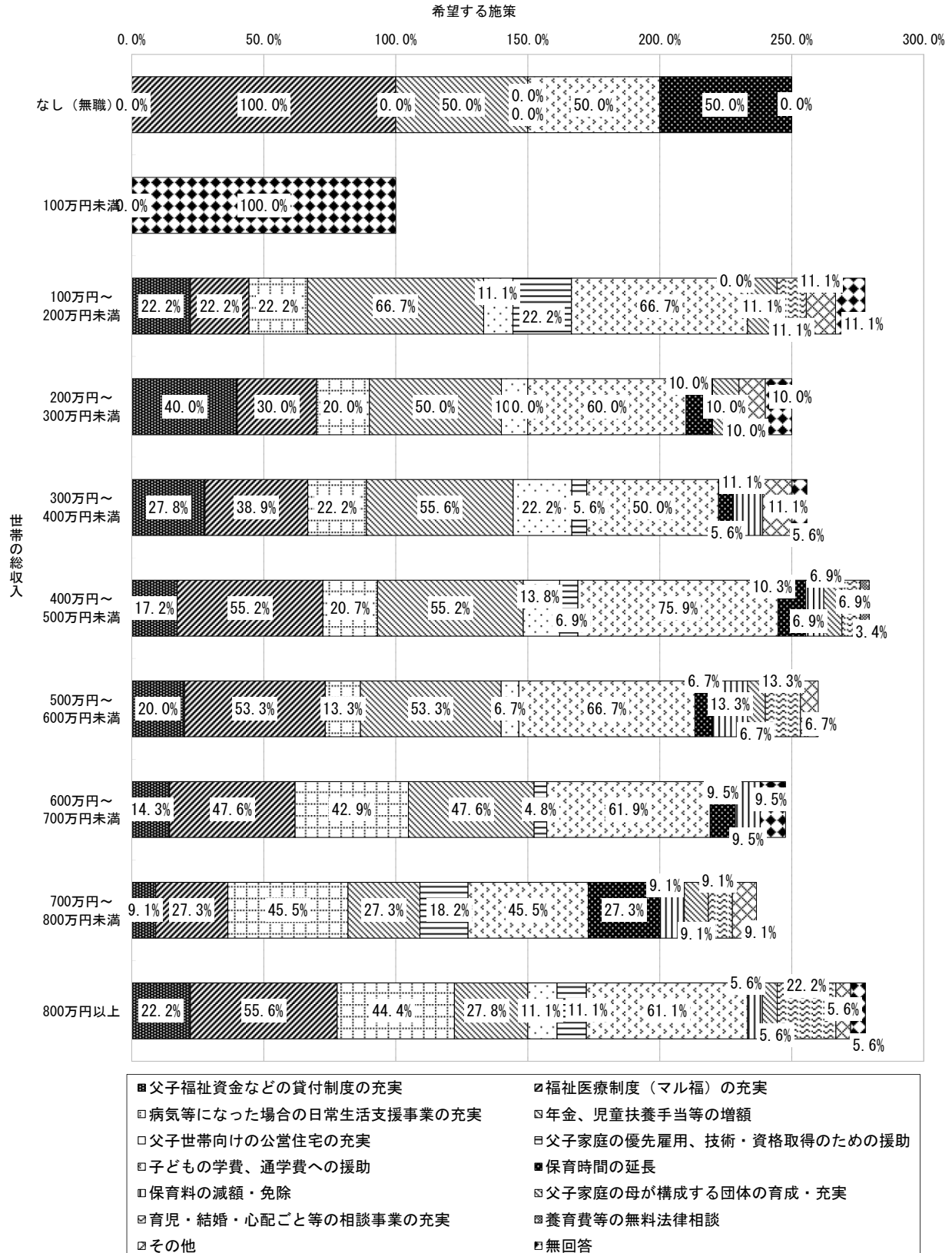
【図 10-3 希望する施策（複数回答）】



10-3-1 世帯の総収入と希望する施策

世帯の総収入と希望する施策を併せてみると、総収入に関わらず、「子どもの学費、通学費への援助」が最も多く、700万円未満の世帯では「年金、児童扶養手当等の増額」、「福祉医療制度（マル福）の充実」が多くなっている。700万円以上の世帯では、「病気等になった場合の日常生活支援事業の充実」が多くなっている。

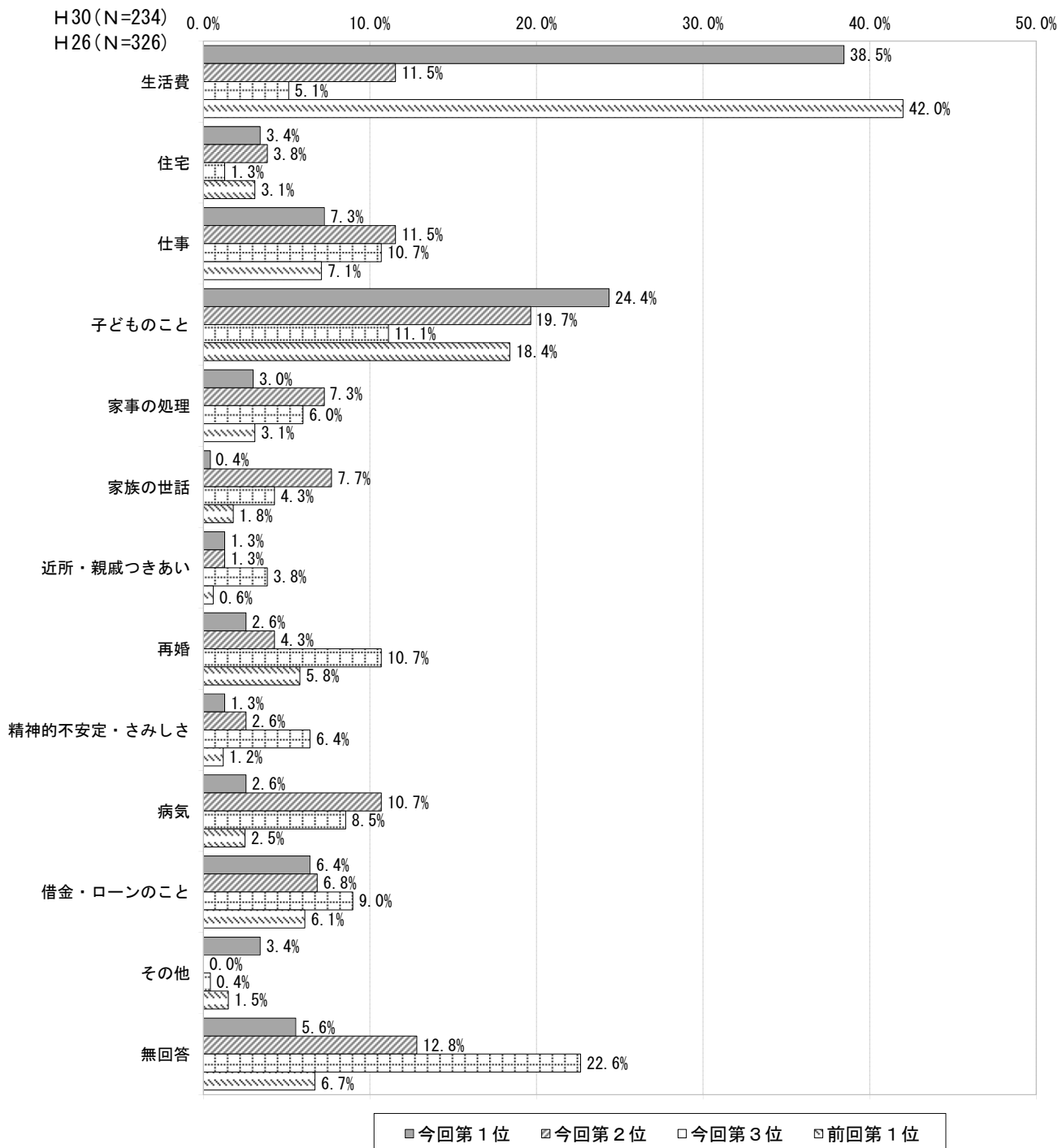
【図 10-3-1 世帯の総収入と希望する施策（複数回答）】



10-4 悩んでいること

悩んでいることで1位の項目は、「生活費」が38.5%で最も多く、次いで「子どものこと」が24.4%、「仕事」が7.3%となっている。悩んでいることで2位の項目は、「子どものこと」19.7%が最も多く、次いで「生活費」、「仕事」がそれぞれ11.5%となっている。

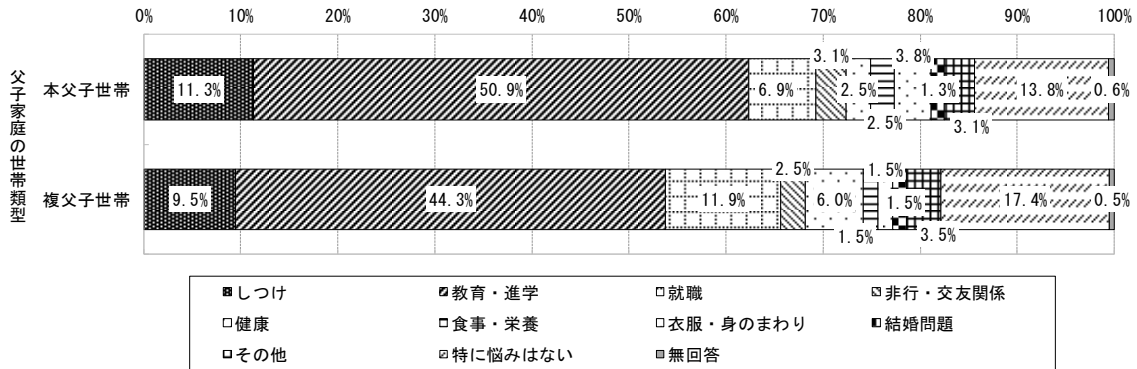
【図 10-4 悩んでいること（複数回答）】



10-5 子どものことで気がかりなこと

子どものことで気がかりなことを世帯類型別にみると、「教育・進学」が「本父子世帯」（父と子だけの世帯）で50.9%、「複父子世帯」（父と子以外の同居人がいる世帯）で44.3%と最も多くなっている。次いで本父子世帯、複父子世帯ともに「特に悩みはない」となっている。

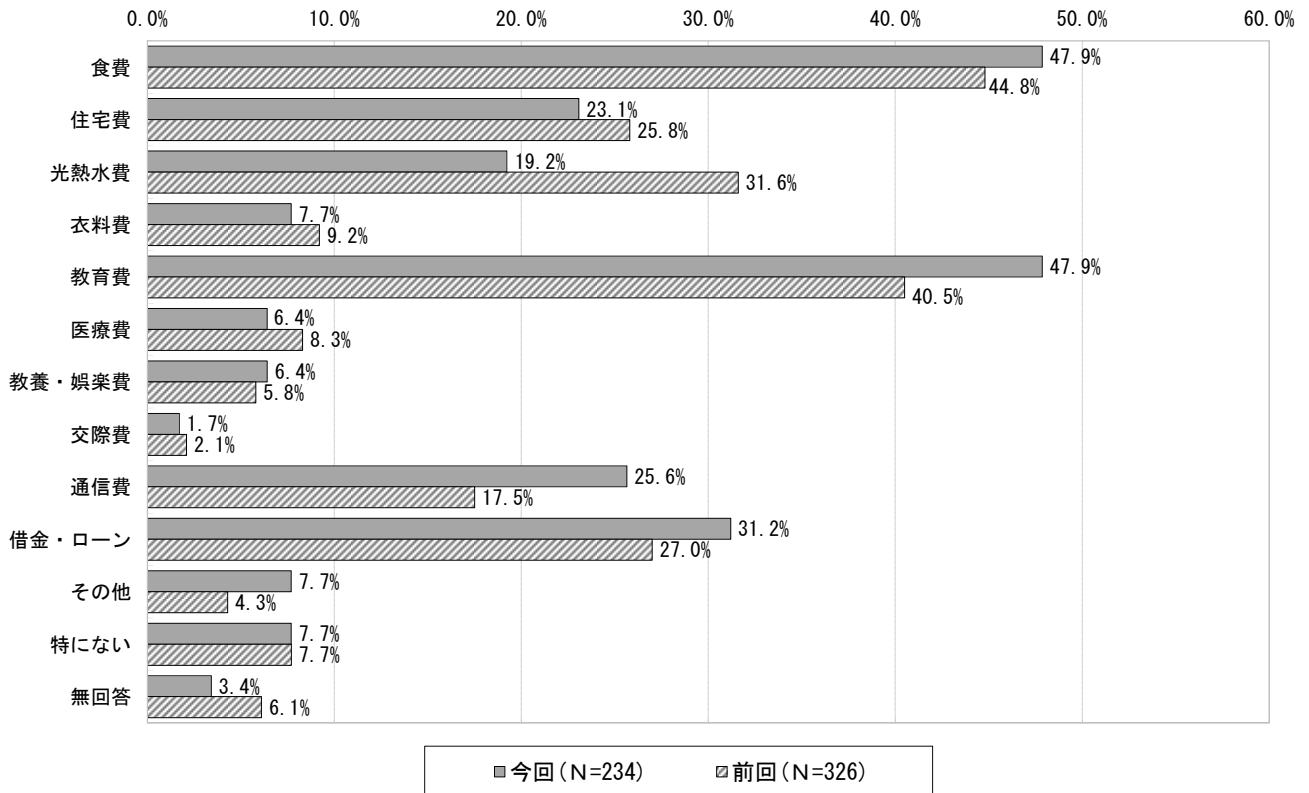
【図10-5 子どものことで気がかりなこと】



10-6 家計の中で負担に感じる費用

家計の中で負担に感じる費用は「食費」、「教育費」がそれぞれ47.9%で最も多く、次いで「借金・ローン」が31.2%、「通信費」25.6%となっている。前回調査と比較すると、「通信費」が8.1ポイント、「教育費」が7.4ポイント増加し、「光熱水費」が12.4ポイント減少している。

【図10-6 家計の中で負担に感じる費用（複数回答）】



10-7 身近な相談相手

身近な相談相手は、「親族」が43.2%で最も多く、次いで「欲しいと思うがいない」が18.8%、「知人・隣人」が18.4%となっている。

【図 10-7 身近な相談相手】

